

各事業評価シート

【基本施策1 誰もが学べる環境の整備
施策の展開① 子どもの頃から始める生涯の学び】

番号		生涯学習プラン		未来デザイン2040		基本情報			量的成果				質的成果		自己評価			次年度の目標		担当課					
		施策の展開	具体的な施策	施策名	施策番号	施策名	事業名	対象者	事業目的・R7の実施状況		評価指標	R7目標値	R7目標値の理由・根拠		R7実績値	参加者の声・学びの様子（120字程度）		評価	事業の方向性	評価の理由・今後の方向性（改善策）等		R8目標値	R8目標値の理由・根拠		
1		01	01	子どもたちが体験できる機会の充実	3-2	未来をひらく子どもを育てる教育	情報紙「八王子まるごと子どもキャンパス」	子ども	【事業目的】 加盟校大学等が実施する子ども向け催事の情報を一冊に集約し、広く市内の子どもたちや保護者に提供することで、大学の教育資源や特色ある学びの機会を身近に感じてもらうことを目的とする。また、従来の小学生向け講座情報に加え、中学生向け講座も紹介することで、幅広い学年層に学びの選択肢を提供する。 【R7の実施状況】 加盟校大学等から、7月～12月に実施予定の子ども向け催事情報を収集し、情報誌としてまとめる。配布対象は市内各小中学校の児童および保護者であり、講座の内容や対象学年を分かりやすく掲載することで、参加促進を図る。	普及・啓発（情報発信・チラシ配布等）	発行部数41000部	例年の配布実績および市内小中学校への全児童配布数を踏まえ、必要部数として設定した。		発行部数41000部	関係者からは、大学の取組を子ども向けに分かりやすくまとめた媒体として有用であるとの声が聞かれた。また、情報誌を通じて大学の講座や催事に興味を持つきっかけとなり、子どもや保護者が学びの機会を主体的に選択する意識の醸成につながっている様子がうかがえた。		A	継続	【評価理由】 市内の小中学校を通じて、広く子どもおよび保護者に対する情報提供を行うことができた。事業効果を直接測定するアンケート等は実施していないものの、大学関係者や学生から本情報誌について認知しているとの声が聞かれるなど、一定の周知効果はあったものと考えられる。 【今後の方向性（改善策）等】 引き続き小中学校を通じた配布により、幅広い周知を行うとともに、事業効果を把握するための簡易なアンケートや、デジタル媒体との併用による反応把握の方法について検討する。		発行部数41000部	市内小中学校の児童数および配布方法に大きな変更が見込まれないため、R7実績と同程度の発行部数を目標値として設定した。引き続き、安定的な情報提供を行い、子どもや保護者への学習機会の周知を図る。		学園都市文化課	
2		01	01	子どもたちが体験できる機会の充実	3-1	全ての子どもが健やかに育つ地域づくり	子ども体験塾「トイ・トイオーケストラ！」	親子・保護者	【事業目的】 オーケストラを実際に鑑賞する機会の少ない子どもたちに、生のオーケストラの大迫力を体感できる機会を提供し、音楽への興味と豊かな感性を育む。 【R7の実施状況】 8月18日に公演を1回実施した。	参加者等の満足度	80%以上	音楽への興味と豊かな感性を育むという目的の達成度を、参加者の実感により把握するため、アンケートで5段階評価を行い、過去実績を踏まえ、「大変良かった」または「良かった」の合計割合が80%以上であれば、参加者の大多数が高評価であったと判断できたため目標値とした。		97.7%	参加者からは、「オーケストラは初めてでドキドキしていました。でも、オーケストラは、遠くても迫力があって、ビックリしました。オーケストラの1人になってみたいと思いました。」「子どもが知っている曲が多かったり、1曲がコンパクトで子供が聞いていても飽きない工夫がされていて、良かったです。」などの感想が寄せられており、子どもの音楽への興味や豊かな感性を育む機会として一定の効果が得られたと考えられる。		A	継続	【評価理由】 参加者満足度が目標値を上回り、事業内容が参加者のニーズに一定程度応えられていると認められるため。 【今後の方向性（改善策）等】 クラシック音楽を初めて聴く子どもも楽しめるよう、誰もが耳にしたことのあるポピュラーな音楽も演奏するなど、プログラムを検討し、より満足度の高い事業となるよう取り組む。		80%以上	音楽への興味と豊かな感性を育むという目的の達成度を、参加者の実感により把握するため、アンケートで5段階評価を行い、過去実績を踏まえ、「大変良かった」または「良かった」の合計割合が80%以上であれば、参加者の大多数が高評価であったと判断できたため目標値とした。		子どものしあわせ課	
3		01	01	子どもたちが体験できる機会の充実	6-1	一人ひとりが考え、ともに守る環境	八王子浅川水辺の楽校	子ども	【事業目的】 市内の中心部を流れる「浅川」を積極的に活用し、地域に根ざした体験活動を通して環境教育・環境学習の充実を図り、子供たちが自然と触れ合うことで、環境を大切にすると心、行動力を育成することを目的としている。 【R7の実施状況】 浅川にて「八王子浅川ガサガサ探検隊」「野鳥観察・ゴミ拾い」を実施したほか、市内の川の魅力を伝える展示「八王子の川はスゴいぞ展」を本庁舎等で実施した。	参加者等の満足度	80%以上（全回答のうち満足度を最大評価とした人の割合）	学習意欲の向上という成果をイベント参加者の実感により把握するため、八王子浅川ガサガサ探検隊での参加者満足度を指標とし、過去実績を踏まえ参加者の大多数が高評価であったと判断できる80%以上を目標値とした。		88%（全回答のうち満足度を最大評価とした人の割合）	「八王子の豊かな自然を知る事ができた」「普段は川に入ろうと思わなかったが、こういうキッカケがあったのでとても楽しめた」という感想をいただき、地域の自然の魅力に気づき、自然と触れ合う良い機会になったことがうかがえた。		S	継続	【評価理由】 参加者満足度が目標値を上回り、講座内容が参加者の学習ニーズに十分応えられていると認められるため。さらに八王子浅川ガサガサ探検隊等での成果を、生きもの展示室（浅川や周辺に生息する生物を展示）で開催された「八王子の川はスゴいぞ展」を通じて発表することにより当初の事業目的を超える下記の成果を得ることができたため。 ・ガサガサ探検隊等のイベント参加者には体験学習と展示の連動により、知識の定着強化を図ることができた。 ・「自分たちの川にこんな生き物がいる」という認識を持たせることで、市民の郷土愛を育むことができた。 ・ガサガサ探検隊参加者から来館者へ学びを広げることができた。 【今後の方向性（改善策）等】 外部の補助金をより活用し、活動の拡充を図る。また、ホームページを作成・公開することで対外的な発信力の強化を図る。暑さ対策として従来夏季に実施していたイベントを秋季に実施する。		80%以上	事業内容の改善を図ることで、イベント参加者の満足度向上を目指すのが、暑さ対策のため実施時期を変更することによる影響が未知数のため、目標値を据え置いた。		環境学習推進課	
4		01	01	子どもたちが体験できる機会の充実	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	八王子「宇宙の学校」	その他（小学校2年生から3年生）	【事業目的】 小学校低学年の子と親の絆を強め、地域が協力して子どもを育む仕組みづくりを行う。 宇宙に関連する様々な素材・身近な教材を活用し、子どもたちの心にある好奇心、冒険心、匠の心を育成する。 【R7の実施状況】 前年度（110組）より参加者を増やして実施した（R7は120組）。また、私立八王子高校と東京工業高等専門学校との2会場で行い、それぞれの学校と連携しながら実施した。 なお、R7は八王子「宇宙の学校」開校15周年という節目にあたるため、八王子「宇宙の学校」開校15周年を記念して、JAXA宇宙飛行士 金井宣茂氏を招き、八王子市内の小学校4年生から中学校3年生の児童・生徒を集め、「宇宙飛行士講演会」を開催した。	参加者等の満足度	アンケート集計結果における満足度90%以上	親と子の絆を強め、地域が協力して子どもを育む仕組みづくりを行うこと、また宇宙に関連する様々な素材・身近な教材を活用し、子どもたちの心にある好奇心、冒険心、匠の心を育成するという成果は参加者の実感により把握できることから、参加者の満足度を指標とし、過去実績を踏まえ参加者の大多数が高評価であったと判断できる90%以上を目標値とした。		95%	宇宙の学校の新たな取組として子どもたちの素朴な疑問を引き出す「はて！なんでだろうコーナー」を実施した。子どもたちから「何で飛行機はバックできないの」など多数の疑問が出て、宇宙の学校最終日に講師がその答えを説明した。 また、R7は八王子「宇宙の学校」開校15周年という節目にあたるため開校15周年を記念して、JAXA宇宙飛行士を招き、八王子市内の小学校4年生から中学校3年生の児童・生徒を集め、「宇宙飛行士講演会」を開催した。 講演後の質問コーナーでは多くの子どもたちから「国際宇宙ステーションから見える星と地上から見える星の違いはありますか」や「国際宇宙ステーションに到着して最初にすることは何ですか」また「宇宙食で好きな食べ物は何ですか」など、多くの質問が出て大盛況であった。		S	継続	【評価理由】 令和7年度の「宇宙の学校」では、参加者の満足度は前年度90.3%から4.7ポイント上昇し、95%になり目標を達成することができたこと。 また、新たな取組である「はて！なんでだろうコーナー」でも、子ども達から多くの疑問を引き出すことができ、講師からのその答えの説明においても、質問をした子どももその他の子どもも情報共有をすることができ、活発に会を運営することができた。 さらに、R7限定になるが、八王子「宇宙の学校」開校15周年を記念して、JAXA宇宙飛行士を招き、八王子市内の小学校4年生から中学校3年生の児童・生徒を集め、「宇宙飛行士講演会」を実施し、多くの子ども達から質問が出て講演会自体が大盛況であったことを評価した。 【今後の方向性（改善策）等】 事業目標の達成や「はて！なんでだろうコーナー」を継続的に実施するとともに、「宇宙の学校」の開催時期や開催内容の一部見直し、参加者の当日の参加率を上昇させるなどの工夫をしていく。		アンケート集計結果における満足度90%以上	親と子の絆を強め、地域が協力して子どもを育む仕組みづくりを行うこと、また宇宙に関連する様々な素材・身近な教材を活用し、子どもたちの心にある好奇心、冒険心、匠の心を育成するという成果は参加者の実感により把握できることから、参加者の満足度を指標とし、過去実績を踏まえ参加者の大多数が高評価であったと判断できる90%以上を目標値とした。 なお、令和8年度の開催時期を一部見直すことにより、参加率の上昇もサブ目標とすべきか検討していく。		こども科学館	

各事業評価シート

【基本施策1 誰もが学べる環境の整備
施策の展開① 子どもの頃から始める生涯の学び】

番号		生涯学習プラン		未来デザイン2040		基本情報			量的成果				質的成果		自己評価			次年度の目標		担当課
		施策の展開	具体的な施策	施策名	施策番号	施策名	事業名	対象者	事業目的・R7の実施状況	評価指標	R7目標値	R7目標値の理由・根拠	R7実績値	参加者の声・学びの様子（120字程度）	評価	事業の方向性	評価の理由・今後の方向性（改善策）等	R8目標値	R8目標値の理由・根拠	
5		01	01	子どもたちが体験できる機会の充実	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	子どもいちょう塾	子ども	【事業目的】 子どもの学ぶことへの関心・意欲を高めることを目的として、加盟大学等が、その特色を生かし、小学校高学年（4～6年生）を対象とした夏休みの特別講座を開催。 【R7の実施状況】 令和7年7月19、20日に学園都市センター、クリエイトホールにて実施。 市内18大学から30講座を提供してもらい、426名の児童が参加。	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	定員充足率85%以上	講座の参加状況を把握する指標として定員充足率を設定し、過去実績や講座定員を踏まえ85%以上を目標として設定した。	68%	講座に参加した保護者からは、内容が楽しく夏休みの学びとして充実していたとの意見があった。また、大学ならではの特色ある体験を通じて、児童が新しい分野に興味を示す様子も見られ、学ぶことへの関心や意欲を高める機会となっていた。	B	改善	【評価理由】 参加者数は目標値に達しなかったが、大学の特色を活かした体験型講座により、児童が新たな分野に興味を示すなど、学ぶことへの関心や意欲を高める機会を提供することができた。 一方で、参加者数が伸び悩んだ要因として、対象者や申込方法、周知手段の工夫が十分でなかったことや、参加の窓口が限定的であったことが課題としてあった。今後は、以下の改善策を実行し、参加者数の増加につなげる必要がある。 【今後の方向性（改善策）等】 以下の取組を現在検討中 ・対象年齢を拡大し、重複申し込み可能にする。 ・講師への依頼内容を具体化し、特色ある講座を開講する。 ・ワークショップを復活させ、当日参加も可能にする。 ・参加の窓口を広げ、参加者数の増加を目指す。 ・八王子市外からの申し込みも受け付ける。 ・「考える」「体験する」といった疑似授業要素を取り入れる。	定員充足率90%以上	対象年齢拡大・講座改善・八王子市外からの参加者受付により、参加者数の増加を目指す。	学園都市文化課
6		01	01	子どもたちが体験できる機会の充実	6-1	一人ひとりが考え、ともに守る環境	親子里山保全体験講座	子ども	【事業目的】 市内在住の小学生を対象に里山環境での生きもの探しや緑地保全体験等を通じ、身近な自然を守る大切さを学ぶ。 【R7の実施状況】 7/26・3/14に上川の里で実施。予定3回のうち2回実施した。（1回は講師団体の都合により実施せず）3/14は3組6名が当日キャンセル	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	15組	イベント実施回数を3回と見込み、前年度（16組）と同程度の参加者とする。	9組（イベント2回）	・参加した子どもたちから「様々な昆虫やおたまじゃくしに触れられておもしろかった」といった感想があった。3/14の開催では普段触れることのないのこぎりを何度も使い、切った枝を満足そうに持ち帰る様子があった。 ・生きものや自然の素材に直接触れる機会は、子どもたちの成長に良い影響をもたらすと考える。	A	継続	【評価理由】 ・講師団体の都合による1回未実施と、当日キャンセルのため参加者数の減があったが、実施内容の変更（3/14の間伐体験）を行うなど質的向上に取り組んだ。 【今後の方向性（改善策）等】 ・夏の暑さ対策、実施可否の検討 ・春の回は例年参加者が少ない傾向にあり、実施可否又は時期の変更も検討	15組	・イベント実施回数を3回と見込み、1回あたり5組とする。	環境保全課
7		01	01	子どもたちが体験できる機会の充実	3-1	全ての子どもが健やかに育つ地域づくり	とうきょうすくわくプログラム	その他（保育園在園児）	【事業目的】 「とうきょう すくわくプログラム」は、乳幼児の成長と好奇心を育むため、各園の強みを活かした主体的・協働的な探究活動を支援し、幼児教育・保育の充実を図る。 【R7の実施状況】 公立保育園各園、乳幼児の興味・関心に応じた探究活動を一定程度継続的（月を単位として複数月）に実践する。 なお、民間保育園等においても、運営費加算として「保育サービス推進事業」を行い、実施を支援する。	その他	公立保育園全園及び民間保育所等全園	令和7年4月に策定した「八王子市 乳幼児期の教育・保育に関する方針」において、幼児教育・保育の質の向上を図る新たな取組として「とうきょう すくわくプログラム」の活用を位置付けており、その推進に当たり公立保育園及び民間保育所等の全園での活用を目標値とした。	公立保育園全園 民間保育園27園	乳幼児一人ひとりの「なぜ?」「やってみよう」という気持ちを大切にしたい保育が進み、子どもが自ら考え、試し、友だちと関わりながら学ぶ姿が多く見られるようになった。 探究活動を複数月にわたり継続したこと で、興味・関心が深まり、遊びや学びが発展・連続していく過程が明確になった。 各園の環境や特性を活かしたテーマ設定により、園ごとの強みを生かした特色ある探究活動が展開され、幼児教育・保育の質の向上につながった。	A	継続	【評価理由】 公立保育園各園において、乳幼児の興味・関心を起点とした探究活動を、月単位で複数月にわたり継続的に実践することができた。 民間園を含めた各園の環境や特性を活かしたテーマ設定により、子どもが主体的に関わる活動が展開され、探究の過程を大切にしたい保育が一定程度定着した。 【今後の方向性（改善策）等】 探究活動の深まりや広がり方には園ごとの差が見られ、記録や振り返りの方法についても、さらなる工夫の余地があると考えられる。	公立保育園全園及び民間保育所等全園	幼児教育・保育の質の向上を引き続き推進するため、プログラム活用の対象を公立保育園及び民間保育所等の全園とする。	保育幼稚園課
8		01	01	子どもたちが体験できる機会の充実	3-2	未来をひらく子どもを育てる教育	体験農業「稲作体験」	親子・保護者	【事業目的】 日本の主食である「コメ」の田植えから収穫までの一連の作業を通じ、都市農業の現状と農業に対する理解を深めるとともに、食育や水田の持つ多面的な機能を学ぶ機会を提供する。 【R7の実施状況】 参加者：14組44名 ①田植え6月14日②稲刈り10月11日③収穫祭11月8日	参加者等の満足度	85%以上	農業に対する理解や食育等を学ぶ機会となったかを参加者の実感により把握するため加者満足度を指標とし、自主参加型の事業であることを踏まえ85%以上を目標値とした。	100%	実施後のアンケートでは、「稲作を体験してみて、農業に興味を持った。」「子どもが農業に興味を持つことができた。」「稲作や自然に触れ合えた。」といった声が多く寄せられた。 実体験型の取組により、農業への理解や関心を高める効果があった。	A	継続	【評価理由】 参加者満足度が高く、農業に対する理解を深めるとともに、食育や水田の持つ多面的な機能を学ぶ機会の提供ができ、事業目的に対する効果が確認できたため。 【今後の方向性（改善策）】 内容をより充実させる事業運営を進める。	90%以上	内容充実により、さらなる満足度向上が見込まれるため、目標値を引き上げた。	農林課
9		01	02	青少年の海外交流・都市間交流の実施	3-2	未来をひらく子どもを育てる教育	青少年海外交流事業	市内在住の中学生	【事業目的】 海外の青少年と交流し、国際理解を深め、異文化・外国語でのコミュニケーション体験により国際的視野を持った青少年を育成する。 【R7の実施状況】 16名の派遣団員が3泊4日で台湾高雄市と台北市を訪問。両市の文化施設等の見学や、高雄市立壽山中学を訪問して現地中学生と1日交流した。	参加者等の満足度	満足度80%以上	アンケートの項目における『参加前後で、海外や外国語への興味・関心が向上したかどうか』の設問に“はい”と回答した参加者の割合が高いほど、本事業の目的を達成できたと判断できる。	100%	参加者の声 ・台湾交流を通して、日本の常識は世界の常識じゃないとか当たり前のことを再確認できたと感じた。台湾に限らず色々な国のことをもっと知りたいと思ったし、言語を学びたいと思った。 ・言語が違ってても、しっかりと想いを伝え合うことができるとわかった。 ・台湾の人達とも国や言語を超えて話すことができました。言語能力だけでなく、自分自身の積極性や協調性、仲間への信頼信用など、得たものがたくさんありました。	A	継続	【評価理由】 参加者の満足度が目標値を上回り、事業内容が参加者ニーズにできていることが認められるため。 【今後の方向性（改善策）等】 事業内容について参加者アンケートの結果を踏まえた見直しを行い、事業効果のさらなる向上を図る。	満足度80%以上	R8年度から学園都市文化課へ業務移管 事業実施内容について移管先で再検討することになるが、アンケートで『参加前後で、海外や外国語への興味・関心が向上したかどうか』の設問に“はい”と回答した参加者の割合が高いほど、本事業の目的を達成できたと判断できるため。	学習支援課 ↓ 学園都市文化課

各事業評価シート

【基本施策1 誰もが学べる環境の整備
施策の展開① 子どもの頃から始める生涯の学び】

番号		生涯学習プラン		未来デザイン2040		基本情報			量的成果				質的成果		自己評価			次年度の目標		担当課					
		施策の展開	具体的な施策	施策名	施策番号	施策名	事業名	対象者	事業目的・R7の実施状況		評価指標	R7目標値	R7目標値の理由・根拠		R7実績値	参加者の声・学びの様子（120字程度）		評価	事業の方向性	評価の理由・今後の方向性（改善策）等		R8目標値	R8目標値の理由・根拠		
10		0-1	0-2	青少年の海外交流・都市間交流の実施	3-4	未来につながる文化の継承と創造	北海道白糠町小学生交流事業	その他（手入力）小学校5・6年生	【事業目的】 本市と歴史的なゆかりのある北海道白糠町の小学生と交流し、互いの地の歴史や文化を学ぶとともに、友情を育み、親善を深め、相手を思いやる心を醸成する。 【R7の実施状況】 令和7年7月30日～8月2日で八王子市の小学5・6年生が白糠町を訪問し、同町の小学5・6年生13名とともに歴史や文化の学習・体験を通じて交流を行った。		参加者等の満足度	参加者アンケートにおける『交流事業に参加してよかったか』の設問に”よかった””または”とてもよかった”と回答した参加者の割合が100%	目的の達成度を参加者の実感により把握するため、参加者満足度を指標とし、参加者全員が満足できたといえる100%を目標とした。		100%	「体験が充実していて楽しかった」「他人と話すことが得意ではなかったが、苦手を克服して友だちを作ることができた」「たくさん友だちができた」「八王子と白糠のつながりをより深く知れた」「アイヌ文化体験や自然体験ができた」とのコメントがあった。		A	継続	【評価理由】 参加者満足度が目標を達成していることから、目的を達成できたと考えられる。 【今後の方向性（改善策）等】 令和8年度は白糠町の小学生が本市を訪問予定である。本市と白糠町の歴史や文化の学習・体験を通じて友情や郷土を愛する心を育む。		参加者アンケートにおける『交流事業に参加してよかったか』の設問に”よかった””または”とてもよかった”と回答した参加者の割合が100%	目的の達成度を参加者の実感により把握するため、参加者満足度を指標とし、参加者全員が満足できたといえる100%を目標とする。		文化財課
11		0-1	0-2	青少年の海外交流・都市間交流の実施	3-2	未来をひらく子どもを育てる教育	姉妹都市給食交流事業	子ども	【事業目的】 市内小中学校において、姉妹都市・海外友好交流都市のご当地メニューや特産品を給食で提供するとともに関連した食育を実施することにより、児童・生徒の姉妹都市等への理解を深める。 【R7の実施状況】 ①市内小中学校において、姉妹都市である小田原市や寄居町のご当地メニューを給食で提供するとともに関連した食育を実施した。 ②市内中学校において、海外友好交流都市である台湾・高雄市の金鑽パイナップルを給食で提供するとともに関連した食育を実施した。また、1校において台湾・高雄市とのメッセージ動画を通じた交流を行い、相互理解を深めた。		その他	姉妹都市・海外友好交流都市関連献立実施回数 年2回	学校給食において様々な食育を計画的に実施する中で、姉妹都市・海外友好交流都市への理解を深める機会を継続的に確保するため、実施効果が期待できる頻度として年2回を設定した。		姉妹都市・海外友好交流都市関連献立実施回数 年2回	台湾・高雄市とのメッセージ動画を通じた交流を実施した中学校の生徒からは「パイナップルが苦手だったけど、食べてみたらおいしかった！」「青少年海外交流事業に参加してみたくなった！」「台湾に行きたいです！」などの声が聞かれ、海外友好交流都市への理解が深まった様子だった。		A	継続	【評価理由】 献立実施回数の目標値を達成し、姉妹都市・海外友好交流都市への理解を深めるという目的に対する効果が確認できたため。 【今後の方向性（改善策）等】 今後も同様に取り組んでいく。		姉妹都市関連献立実施回数 年1回	学校給食において様々な食育を計画的に実施する中で、姉妹都市への理解を深める機会を継続的に確保するため、実施効果が期待できる頻度として年1回を設定した。		学校給食課
12		0-1	0-3	全ての世代への切れ目ない読書活動の支援	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	おはなし会	乳幼児	【事業目的】 乳幼児から読書にふれる機会を提供することにより、読書習慣の啓発を図る。ブックスタート事業など、発達段階に応じた切れ目ない読書活動の支援を行う。 【R7の実施状況】 図書館を会場としてボランティアと実施した。		参加者数・利用者数・利用件数等	【ブックスタート】 1,710人 【おはなし会】 1,700人	【ブックスタート】 令和7年度より「3か月から4か月児健康診査」が集団健診から個別受診となったことに伴い、開催会場を集団健診会場から図書館に変更したことを踏まえ、令和6年度目標値の約7割とした。 【おはなし会】 前年度実績が1607人だったが、川口図書館が再開館することの効果を考え、1700人とした。		【ブックスタート】 518人 【おはなし会】 3,513人	来館した母親の声として「ブックスタートで受け取った絵本を家庭で赤ちゃんに読み聞かせをしており、絵本の時間をとても楽しんでいた」だという感想があった。		B	改善	【評価理由】 おはなし会については、川口館の再開館や館外イベント（パークライブラリー等）の実施により参加者数が前年度を大幅に上回り、読書に親しむ機会を提供することができた。 一方、ブックスタート事業については目標値を下回る結果となった。原因として、開催場所を図書館としたことにより、乳幼児を連れた保護者の来館の負担が大きくなったことなどが考えられる。乳幼児期における読書習慣の啓発においては、対象者が参加しやすい環境設定が十分でなかった点が課題としてあった。 【今後の方向性（改善策）等】 ブックスタート事業については、幼児を連れた保護者が参加しやすい環境を整備するため、対象年齢及び実施会場を見直す。「1歳6か月児健康診査」の集団健診に合わせて、会場であるこども家庭センターで実施することにより利用者数の回復及び増加につなげる。		【ブックスタート】 1,710人 【おはなし会】 3,000人	【ブックスタート】 令和7年度に目標を達成できなかったことから、令和8年度も同等の目標とした。 【おはなし会】 令和7年度の実績を踏まえ、目標とした		図書館課

各事業評価シート

【基本施策1 誰もが学べる環境の整備
施策の展開① 子どもの頃から始める生涯の学び】

生涯学習プラン			未来デザイン2040		基本情報			量的成果				質的成果		自己評価			次年度の目標		担当課
番号	施策の展開	具体的な施策	施策名	施策番号	施策名	事業名	対象者	事業目的・R7の実施状況	評価指標	R7目標値	R7目標値の理由・根拠	R7実績値	参加者の声・学びの様子（120字程度）	評価	事業の方向性	評価の理由・今後の方向性（改善策）等	R8目標値	R8目標値の理由・根拠	
13	01	03	全ての世代への切れ目ない読書活動の支援	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	本の POP コンテスト	若者	【事業目的】POP作りを通して、より主体的に読書体験を通じた感動を表現し、豊かな人間性を育むと共に、読書習慣の習得・読書活動の振興を図る。 【R7の実施状況】市内在住の小学生～大学生を対象に、本のPOPコンテストを開催した。	参加者数・利用者数・利用件数等	3,225点以上	令和6年度の応募作品数実績（3,225点）を踏まえ、事業の定着や周知効果による応募増を見込み、前年度実績を上回る水準として目標値を3,225点以上に設定した。	2712点	審査に参加した審査員からは、年々作品のクオリティが上がっているとの評価を頂いた。また、応募者数の多い学校では校内で作品の展示を行っているところもあり、「コンテスト参加が学習意欲につながっている」との声もあった。さらに、「入賞作品が市内の図書館・書店で展示されることに触れ、地域の人に見てもらえる機会がある点が参加者の励みになっている」との声もあった。	A	継続	【評価理由】目標値を達成できなかった一方、審査員からの好意的なコメントや、学校からの好意的な受け止めなどがあったため、A評価とした。 【今後の方向性（改善策）等】周知方法の強化などを行い、応募数が増加するよう努めることとする。	3,000点以上	令和6年度実績と令和7年度実績の概ね平均とした。	図書館課
14	01	03	全ての世代への切れ目ない読書活動の支援	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	高齢者施設への出張図書館	シニア	【事業目的】図書館への来館が困難な高齢者の入居施設を対象に、図書の出張貸出しや団体貸出しを実施し、身近で読書に親しめる環境の整備を図る。 【R7の実施状況】実施の際の入居者の反応は良く、リクエストも多いため、事業の効果が出ている。	参加者数・利用者数・利用件数等 ※ 数量的なもの	前年度と同数【施設数】12か所【貸出数】5,000冊	実施状況を示す指標として施設数及び貸出数を用い、実績を踏まえ前年度同様の目標値とした。	【施設数】12か所【貸出数】4,628冊	出張図書の貸出について、施設には所蔵していない多くのタイトルの本に触れられた、読書の機会の確保につながった。	A	継続	【評価理由】年度当初の目標貸出冊数にわずかに到達しなかったが、読書の機会の確保につながったと考えられるため、A評価とする。 【今後の方向性（改善策）等】利用者のニーズを考慮すると、今後も継続して取り組む意義や満足度は期待できる。今後貸出実績が伸びるよう、施設等や利用者への利用を促していく。	5,000点以上	実施状況を示す指標として施設数及び貸出数を用い、実績を踏まえ前年度同様の目標値とした。	図書館課

各事業評価シート
【基本施策1 誰もが学べる環境の整備
施策の展開② 多彩な学習環境の充実】

番号		生涯学習プラン		未来デザイン2040		基本情報			量的成果				質的成果		自己評価			次年度の目標		担当課
	施策の展開	具体的な施策	施策名	施策番号	施策名	事業名	対象者	事業目的・R7の実施状況	評価指標	R7目標値	R7目標値の理由・根拠	R7実績値	参加者の声・学びの様子（120字程度）		評価	事業の方向性	評価の理由・今後の方向性（改善策）等	R8目標値	R8目標値の理由・根拠	
15	02	04	人生を豊かにする多様な講座の提供	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	市民自由講座	どなたでも	【事業目的】 歴史、文学、健康等、多様な分野の講座を市民団体・大学・企業などと連携して実施し、市民の生涯学習活動・リカレント教育のきっかけを提供する。 【R7の実施状況】 生涯学習センター3館で計202講座を開催し、6,525名が参加した。	参加者等の満足度	満足度80%以上	成果を講座参加者の実感から把握するため、参加者アンケート集計の「大変満足」「満足」の割合（満足度）を過去実績を踏まえて多数が高評価であったと判断できる80%以上を目標としている。	満足度90.8%	アンケート結果では「大変満足」「満足」という肯定的な回答が90.8%だった。参加者からは「今後の仕事に役立てそうだ」「以前から興味があった内容でとても楽しかった」などの声があり、市民の広い知的関心に応えることができた。		A	継続	【評価理由】 様々な分野の講座を実施することができ、アンケート結果からも高い満足度を得ることができた。 【今後の方向性（改善策）等】 ICT関連講座や健康維持に関する幅広いプログラムを提供することで、市民の生涯学習やリカレント教育を推進する。	満足度80%以上	過去の参加者数が安定しており、現行水準の維持が妥当と判断し、参加者アンケート集計の「大変満足」「満足」の割合（満足度）を80%以上としている。	学習支援課
16	02	04	人生を豊かにする多様な講座の提供	3-1	全ての子どもが健康やかに育つ地域づくり	自然体験・自然観察会	どなたでも	【事業目的】 自然体験・自然観察の機会を提供し、市民の自然を大切にする気持ちを育む。本市の特長でもある豊かな自然を活かし、市民を対象とした自然観察会を行う。 【R7の実施状況】 自然観察会と星空観望会を計4回実施。6月ホタル観察会 10月秋の里山観察会 11月星空観望会 2月冬の里山観察会	参加者等の満足度	参加者数110人	過去3年間の参加者数が安定しており、事業の性質上、現行目標が適正であるため。	参加者数111人	各回のアンケート回答結果より ・歩きながら見つけた虫のことについて何でも質問に答えてもらえたので楽しかったです。 ・見たことのない木の実を見つけた時、わくわくした。 ・普段はとおり過ぎてしまう身近な自然の面白さを解説していただいて、とても新鮮でした。 ・アンドロメダ銀河や土星の位置やアンドロメダ銀河の距離など色々なことが知れたし楽しかった。 ・いつも意識することのない星の名前や位置を確認しながら星を見ることができて楽しかった。双眼鏡で星を見ると、肉眼で見ることのできない星が見れることが知れておもしろかった。		A	継続	【評価理由】 アンケート結果からは、「とても楽しかった」「楽しかった」の回答割合と「次回も同様の会に参加したい」との回答割合がそれぞれほぼ100%となり、高い満足度を得ることができた。 【今後の方向性（改善策）等】 学校外での体験的な学びの機会が必ずしも十分とは言えない状況を踏まえ、その充実を図るとともに、自らの希望に応じた体験活動ができる環境づくりを進めるため、子ども（小中学生）とその保護者を対象に、家庭を通じて市民が身近な自然と触れ合う機会を提供する。	計4回実施参加者数110人	体験的な学びの機会の充実に向け、対象を重点化し質の向上を図る事業であることから、過去3年間の実績を踏まえ、量的目標は現行水準を適正と判断した。	学習支援課
17	02	04	人生を豊かにする多様な講座の提供	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	生涯学習 しえんねっと講座	どなたでも	【事業目的】 学習支援委員が合同講座「しえんねっと講座」を開催することにより、市民に生涯学習活動のきっかけづくりの場を提供し、新たな参加を促す。 【R7の実施状況】 学習支援委員の得意分野を活かした「香りで脳を活性化！心と記憶をサポートするアロマ体験講座」・「ポジティブシンキング～物事の枠組みと捉え方を前向きな視点に変える」など、7講座を実施し、計79名の参加があった。	参加者等の満足度	合同講座の参加者満足度80%以上	学習意欲の向上という成果を参加者の実感により把握するため参加者満足度を指標とし、過去実績を踏まえ参加者の大多数が高評価であったと判断できる80%以上を目標としている。	満足度90%	各講座のアンケート回答結果より ・とてもためになり良かったです。もっといろいろな種類の香りにして知りたいと思いました。（アロマ講座） ・ワークショップ形式で良かったです。他の方の考えを知ることができました。楽しかったです。（ポジティブシンキング講座） ・使いこなせていなかった部分がわかって良かった。（AI講座） ・実際の本当の防災・避難について教えていただいたと思います。自分の必要なものを考える機会になりました。（防災講座）		A	継続	【評価理由】 学習支援委員の得意分野を活かした様々な分野の講座を実施することができた。アンケート結果からも、高い満足度を得ることができた。 【今後の方向性（改善策）等】 今後も学習支援委員の得意分野を活かした「しえんねっと講座」を引き続き企画・開催し、生涯学習活動のきっかけづくりの場を提供する。	合同講座の参加者満足度80%以上	学習意欲の向上という成果を参加者の実感により把握するため参加者満足度を指標とし、過去実績を踏まえ参加者の大多数が高評価であったと判断できる80%以上を目標としている。	学習支援課
18	02	05	郷土の歴史や文化財、文化芸術に親しむ機会の提供	3-4	未来につながる文化の継承と創造	文化財見て歩き	その他（手入力）小学生以上	【事業目的】 郷土の歴史や文化に親しみ、理解を深めるため、地域の文化財を市民に紹介しながら巡る。 【R7の実施状況】 年3回（八王子宿・片倉城跡・八王子城跡）実施した。	参加者等の満足度	参加者の7割以上が「満足」と回答	郷土の歴史や文化への親しみ・理解度を参加者への実感により把握するため、参加者満足度を指標とし、参加者の多数が高評価であったと判断できる7割以上を目標値とした。	各回とも9割以上が「大変満足」「満足」と回答した。	「通り過ぎるだけだった場所の歴史が知れてよかった！これから気にして見てみたい。」「今回初参加でしたが、300円という手頃な参加費ながら、本格的な内容でも満足度が高かったです。今年から八王子に住むことになったのですが、同様の機会があればさらにこの土地に詳しくなりたいと思いました。」等の声があった。		A	継続	【評価理由】 目標値を上回る割合で満足いただいております、目的を達成できたと考えられる。 【今後の方向性（改善策）等】 今後も継続して本講座を行うことで、市民の郷土の歴史や文化への親しみ、理解を深める。	参加者の7割以上が「満足」と回答	郷土の歴史や文化への親しみ・理解度を参加者への実感により把握するため、参加者満足度を指標とし、参加者の多数が高評価であったと判断できる7割以上を目標値とした。	文化財課
19	02	05	郷土の歴史や文化財、文化芸術に親しむ機会の提供	3-4	未来につながる文化の継承と創造	八王子車人形と民俗芸能の公演	どなたでも	【事業目的】 八王子車人形や説経節（説経浄瑠璃）・獅子舞・木遣などの公演を通して、市固有の伝統芸能への興味を深めるとともに、伝統芸能の継承について理解と関心を高める。 【R7の実施状況】 「八王子車人形と民俗芸能の公演」をJ:COMホール八王子で実施した。	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なものの	500名	関心度を公演来場者数で把握するため、来場者数を指標とし、会場客席の概ね半分である500名を目標とした。	722名	公演のほかに、公演の休憩中にロビーでの各獅子舞の用具などの展示を行ったが、多くの方が各団体のブース前で足を止め、獅子舞や用具の説明を聞いており、より伝統芸能への理解が深まったといえる。		A	継続	【評価理由】 来場者数が目標を達成しており、事業目的を達成したと考えられる。 【今後の方向性（改善策）等】 より多くの市民に来場いただくことで、伝統芸能の周知を図る。	700名	来場者数の実績を維持する。	文化財課
20	02	05	郷土の歴史や文化財、文化芸術に親しむ機会の提供	3-4	未来につながる文化の継承と創造	八王子市民文化祭	どなたでも	【事業目的】 市民による文化芸術活動の発表の場及び市民への鑑賞機会を提供することにより、市民文化の振興を図ることを本事業の目的とする。 また、市民参加の文化祭を開催することにより、市民の文化への興味を啓発すると共に、新たな文化都市の構築を目指す。 【R7の実施状況】 32の団体による展示や公演等をJ:COMホール八王子、いちようホール、クリエイトホール、東浅川保健福祉センターにて開催した。	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なものの	12,000人	R6はいちようホールの休館に伴い、来場者数が減となっていた。 R7はいちようホールがリニューアルオープンし、会場もR5市民文化祭とほとんど同じ会場となったため、R5と同程度の来場者数を目標値と設定する。（R5来場者数：12,778人）	12,925人	来場者からは、「いろいろなジャンルの音楽に触れられ楽しめた」、「中学生の多感な感性によって作成された作品の数々を見られてよかった」といった声があり、事業目的である市民の文化への興味を啓発することができたと考える。		A	継続	【評価理由】 来場者数12,000人を達成しており、来場者の方の満足度も高かったことから、概ね事業目的が達成できたと考えられるため。 【今後の方向性（改善策）等】 より多くの市民が楽しめるようにするため、ワークショップのような来場者も体験できるようなコンテンツも増やすことを検討する。	13,700人	R7に策定した第2期八王子市文化芸術ビジョンの方向性4「こたえる」の指標で「文化芸術イベント及び文化芸術関連施設への来場者数」と設定しており、令和15年度の目標を達成するためには、毎年6%の推移の増加を見込む必要があるため、R7の実績から鑑みて左記の数字を設定した。	学園都市文化課

各事業評価シート
【基本施策1 誰もが学べる環境の整備
施策の展開② 多彩な学習環境の充実】

番号		生涯学習プラン		未来デザイン2040		基本情報			量的成果				質的成果		自己評価			次年度の目標		担当課
		施策 の 展開	具体的 な施策	施策名	施策 番号	施策名	事業名	対象者	事業目的・R7の実施状況	評価指 標	R7目標値	R7目標値の理由・根拠	R7実績値	参加者の声・学びの様子（120字程度）	評価	事業 の方 向性	評価の理由・今後の方向性（改善策）等	R8目標値	R8目標値の理由・根拠	
21		02	05	郷土の歴史や文化財、文化芸術に親しむ機会の提供	3-4	未来につながる文化の継承と創造	外国語ガイドボランティア育成事業（日本遺産「桑都物語」推進協議会実施事業）	子ども	【事業目的】 日本遺産ストーリー「靈氣満山高尾山～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～」を活用し、日本遺産構成文化財の一つであり、国内有数の観光地である高尾山を訪れる来日外国人に対し、八王子の歴史文化の魅力伝えることで八王子来訪に対する満足度向上を図る。また、ガイド活動に参加する中学生・高校生が外国人と英語でコミュニケーションを図ることができる実践の場を提供するとともに、若年層の日本遺産認知向上につなげる機会とする。 【R7の実施状況】 中学生・高校生30名がガイド活動に参加し、64か国・約220組の外国人観光客に対してガイドを行った。	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	30名	多くの中学生・高校生がガイド活動に参加できる機会を提供するとともに、ガイドの質を確保するため、実施場所の収容人数等の制約を考慮し、前年度に引き続き30名程度の参加者数を目標値として設定した。	30名	ガイド活動の参加者からは「これまで身に付けた英語スキルを活かすことができた」、「はじめは緊張したが楽しかった」、「ガイド活動を通じて八王子の歴史や文化を更に知ることができた」、「もっと八王子のことを知りたい」といった声があり、事業目的である実践の場の提供や、人材育成につながったと考える。	A	継続	【評価理由】 参加者のガイド活動（コミュニケーション、八王子市の紹介等）の達成度は高く、また、ガイドを受けた外国人の満足度も高かったことがアンケート結果等から確認できたため。 【今後の方向性（改善策）等】 八王子市や高尾山などについては説明できていたものの、日本遺産に関しては英語で紹介することができたと実感を持てた参加者が少なかったことから、次年度以降は日本遺産の魅力を発信できるよう、勉強会やガイドの内容について見直しを行う。	30名	ガイドの質を確保するため、目標値は据え置いた。	文化財課日本遺産推進担当（日本遺産「桑都物語」推進協議会）
22		02	06	スポーツ・レクリエーションに親しむ機会の充実	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	ネオテニス教室	小学校3年生以上	【事業目的】 親子参加型のスポーツの場を提供し、八王子市発祥のニュースポーツ「ネオテニス」の普及啓発を図る。 【R7の実施状況】 6月7日～隔週土曜日計6回開催	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	60名	参加者の募集人数の最大値	42名	「指導者の皆様方が親切で大変良かった。」「老若男女問わずできるスポーツで楽しかった。」「いい運動になり、とても楽しかった。」といった肯定的な意見が多かった。市民の運動への関心を高めることができた。	A	継続	【評価理由】 令和6年度と比較して、参加者数は減ったが、アンケートを集約したところ、参加者の満足度が高かったため。 【今後の方向性（改善策）等】 熱中症が危険視される時期のため、開催時期を見直すなど、熱中症対策を行う。	50名	指導を行うスポーツ推進委員41名中、16名が新任委員であり、円滑な指導を行うことから、来年度募集人数を50名にするため。	スポーツ振興課
23		02	06	スポーツ・レクリエーションに親しむ機会の充実	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	ヘルシーウォーキング	どなたでも	【事業目的】 市内の名所や自然を感じる施設を巡るウォーキング大会。本事業により、市民の体力、健康増進意識の向上を図る。 【R7の実施状況】 5月18日に開催 コースは八王子市役所～出羽山公園～八王子城跡～狭間公園の約11km	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	700名	近年の参加人数を考慮した。	694名	「初めて歩く道が殆どだったので良かった。」「コース途中のスポーツ推進の人が明るくて元気だ。自分の普段行かない裏道がとても良かった。八王子はやっぱり良いと感じた!」「これだけ歩かせて頂いて、歴史も感じられて新緑の中を歩けたのは、良かったです。」といった肯定的な意見が多かった。市民に運動を始める機会を提供できたとともに、普段は通らない道や裏道を通じて、八王子の魅力に参加者に感じていただけた。	A	継続	【評価理由】 令和6年度と比較して参加人数は若干劣るが、アンケートを集約したところ、参加者の満足度が高かったため。 【今後の方向性（改善策）等】 八王子市で新たにできた施設を通ったり、市が実施する他のイベントとのタイアップなど、他所管と連携して開催する。	700名	公道上を歩行するものであることから、安全を考慮し、目標値を設定。	スポーツ振興課
24		02	06	スポーツ・レクリエーションに親しむ機会の充実	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	市民スポーツ大会	どなたでも	【事業目的】 市民が日ごろのスポーツ活動の成果を試す機会の場を提供し、スポーツの推進を図る。 【R7の実施状況】 33競技実施	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	16,742名	第二期スポーツ推進計画において、令和5年度から令和16年度までにスポーツ実施率75%を目標としており、単純計算では年平均約0.63%の向上が必要であるため。（令和6年度実績15,750名×1.063=16,742名）	14,792名	「賞状をもらえてうれしかったです。（水泳・10代）」、「中学生の励みになる大会の開催ありがとうございます!!（ソフトテニス・40代）」、「今回、はじめて選手として出場させていただきました。歳をとって身体は思うように動かなくなってきましたが、子どもと共に続けていきたいと思っています。（空手道・50代）」という肯定的な意見が多かった。世代や競技を超えて、本大会が、参加者の喜びや励みとなり、生涯スポーツへの意欲につながっていると感じた。	A	継続	【評価理由】 参加者アンケートをとったところ満足度が高かったため。 【今後の方向性（改善策）等】 熱中症に十分注意し、適切な対策を講じながら事業を継続する。	15,723名	第二期スポーツ推進計画において、令和5年度から令和16年度までにスポーツ実施率75%を目標としており、単純計算では年平均約0.63%の向上が必要であるため。（令和7年度実績14,792名×1.063=15,723名）	スポーツ振興課

各事業評価シート
【基本施策1 誰もが学べる環境の整備
施策の展開② 多彩な学習環境の充実】

番号			生涯学習プラン		未来デザイン2040		基本情報			量的成果			質的成果		自己評価			次年度の目標		担当課
	施策の展開	具体的な施策	施策名	施策番号	施策名	事業名	対象者	事業目的・R7の実施状況	評価指標	R7目標値	R7目標値の理由・根拠	R7実績値	参加者の声・学びの様子（120字程度）	評価	事業の方向性	評価の理由・今後の方向性（改善策）等	R8目標値	R8目標値の理由・根拠		
25	02	06	スポーツ・レクリエーションに親しむ機会の充実	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	市民ボッチャ大会	どなたでも	【事業目的】 障害の有無や年齢、性別などにかかわらず、楽しむことができるボッチャをとおしてパラスポーツも含めたインクルーシブスポーツの普及を図っていくことを目的に開催する。 【R7の実施状況】 10月25日に富士森体育館主競技場にて開催	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	120名	参加者の募集上限が32チームで1チーム3～6名であるため。	123名	「スポーツ推進委員やボランティアの方々には、大会運営にご尽力いただいて、感謝の気持ちでいっぱいです。」「とても楽しく活動できるよかった。来年もやらせていただきたいです。」「今後もこの様な大会を続けてほしい、運営スタッフの皆さまに感謝です」という肯定的な意見が多かった。パラスポーツの普及に貢献できた。	S	継続	【評価理由】 参加者へアンケートを行ったところ、大会運営への感謝や満足の声、継続参加を希望する意見が多く寄せられ、事業内容および運営体制に対する高い評価が確認された。参加者が安心して楽しめる環境が整っていたことがうかがえ、また、ボランティアも参加し(前年度9人から14人に増)、ボッチャを通じた交流の促進と理解につながっている。以上の理由から、障害の有無にかかわらず参加できる機会の提供を通じて、パラスポーツの普及に効果的に寄与するだけでなく、交流の促進により継続参加意向につなげるなど、当初の目標を上回る成果を得た。 【今後の方向性（改善策）等】 参加募集チームを増やし開催。	120名	令和7年度の実績に合わせ、安全な大会運営を行うことができるチーム数の上限が32チームであることを踏まえ設定。	スポーツ振興課	
26	02	06	スポーツ・レクリエーションに親しむ機会の充実	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	全関東八王子夢街道駅伝競走大会	中学生以上	【事業目的】 八王子市におけるスポーツの振興及び普及を図り、市民及び参加者の健康の保持増進に寄与すること、並びに市内外に対し本市の魅力を発信し、集客を図ることにより、中心市街地及び沿道地域の活性化を目指す。 【R7の実施状況】 514チーム（2,056名）がエントリー。当日は降雪により中止	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	2,000名	警備に係る費用を考慮した場合の最大値であるため。	2,056名	大会参加予定514チームのうち約200チームの選手が、機運醸成イベント『夢街道RUN×PARK（らんぱく）』に立ち寄った。以前より選手からの要望が多かった飲食出店が実現し、参加者から好評を得たほか、スポンサーからも盛り上がりや将来性を評価する声が寄せられた。	-	継続	【評価理由】 箱根駅伝・全日本大学女子駅伝・全国高校駅伝出場校のほか、本市の姉妹都市である日光市から中学選抜チームを招待し、中学生から大人までの幅広い世代で大会に向けた練習を積み、各世代の競技力向上に寄与した。 大会の運営にあたっては、地元町会・自治会をはじめ、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ協会、地元企業・学校などから約1,000名以上のボランティアが参加を予定していた。前日までの準備においては、各団体が大会の成功に向け、垣根を越えて協力することでスポーツの振興だけでなく、地域の活性化にも寄与した。 大会本部を地元小学校から東京たま未来メッセに移し、産業振興、機運醸成イベントとして「夢街道RUN×PARK（らんぱく）」を実施し、参加チームやスポンサーについて、来年以降の大会に繋げることができた。 【今後の方向性（改善策）等】 初めて開催した「らんぱく」の改善点を地元商店会等と協議し、大会のプレゼンス向上と地域をさらに活性化できるよう検討を進める。	2,000名	警備に係る費用を考慮すると、現在の目標値が最大であるため。	スポーツ振興課	
27	02	06	スポーツ・レクリエーションに親しむ機会の充実	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	働き盛り世代向け健康体操教室	成年	【事業目的】 スポーツ実施率の低い「働き盛り世代」の方々に、日頃から運動する習慣をつけてもらうための場を提供し、市民の健康維持・増進を図る。 駅前のクリエイトホールでお勤め帰りの時間帯に健康体操教室を開催する。 【R7の実施状況】 保健所で開催した女性の健康週間特別企画（1回）を含め25回実施	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	190名	ほぼ毎回定員を上回る申し込みがあり、抽選を行っているが、ターゲットが働き盛り世代であるため、仕事や体調等で100%の参加が見込めないことから、定員数の80%とした。	199名	アンケートは行っていないが、トータルで定員数の1.6倍の応募があり、参加者からは教室を楽しんでいる様子が確認できた。	A	継続	【評価理由】 昨年度と同程度の参加者数を確保し、継続的に定員を上回る応募があるなど、高いニーズがあった。運動機会を安定的に提供できており、市民の健康づくりに一定の成果を上げていることから、A評価とする。 【今後の方向性（改善策）等】 事業を業務委託へ移行することから、プログラムの更なる質的向上と実施回数の増加を図る。	280名	業務委託へ移行することにより、実施回数の増加を予定していることから、目標値を引き上げた。	スポーツ振興課	
28	02	07	社会人の学び直しの支援（リカレント教育・リスキリング）	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	八王子リカレント教育支援アプリ「はちりカ」による 情報発信	どなたでも	【事業目的】 リカレント（学び直し）の推進 社会人が学び直しをする際に必要となる情報を、関連する所管や機関、大学等と連携して集め、提供する。 【R7の実施状況】 2,360件の情報を掲載し、生涯学習センター主催講座等でチラシを配布し周知に取り組んだ。	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの		・アプリの継続的かつ効果的な運用。 ・アプリの新規ダウンロード数500以上。	ダウンロード数 525件	昨年度は質的効果の把握ができていないため、今年度はアンケートなど利用者の声を収集し質的効果を把握できる方法を検討する。	A	継続	【評価理由】 目標ダウンロード数を超えられたため 【今後の方向性（改善策）等】 利用者が欲しい情報に容易に辿り着くことができるよう、引き続きメニュー構成等について工夫・改善を行い、継続的かつ効果的にアプリを運用していく。	・アプリの継続的かつ効果的な運用。 ・アプリの新規ダウンロード数500以上。	導入からR7までのダウンロード数の平均を上回るよう設定	学習支援課	

各事業評価シート

【基本施策1 誰もが学べる環境の整備
施策の展開② 多彩な学習環境の充実】

番号		生涯学習プラン			未来デザイン2040		基本情報			量的成果			質的成果		自己評価			次年度の目標		担当課
		施策の展開	具体的な施策	施策名	施策番号	施策名	事業名	対象者	事業目的・R7の実施状況	評価指標	R7目標値	R7目標値の理由・根拠	R7実績値	参加者の声・学びの様子（120字程度）	評価	事業の方向性	評価の理由・今後の方向性（改善策）等	R8目標値	R8目標値の理由・根拠	
29		02	07	社会人の学び直しの支援（リカレント教育・リスキリング）	5-2	まちの活力を創出する産業	本気の創業塾	その他（創業予定者、創業して間もない方）	【事業目的】創業に必要な経営ノウハウ等を学ぶ機会及び経営者としての覚悟、気づきを得る機会を創出するとともに、同じ志を持つ者のネットワーク構築を図る。 【R7の実施状況】八王子で創業したい人を対象に創業に必要な基礎知識を学ぶ機会を提供。	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	創業支援対象者数 22件 創業者数 6件	経済産業省から認定を受けている「創業支援等事業計画」に基づき、受講生一人ひとりに十分な支援をするために22名としている。	受講者数（創業支援対象者数）13件 開催後創業者数 2件（R8. 4. 1時点）	受講後の参加者からのアンケートでは、多くは「大いに得るものがあった。」と回答いただいた。具体的には「創業に向けてビジネスプランの重要性を理解できた。」「講師から具体的なアドバイスを受けることが出来た。」等創業に向けての必要な学びにつながったという声が多かった。	B	改善	【評価理由】参加者数は目標値に達しなかったが、受講者アンケートでは「大いに得るものがあった」等の回答があり、創業に必要な知識の習得や意欲の向上につなげることができた。 一方で、参加者数が伸びなかった要因として、創業を検討している層への周知が十分に行き届いていなかったことが要因として考えられる。 【今後の方向性（改善策）等】参加者数の増加を図るため、説明会の実施や広報の強化に加え、創業支援実施機関との連携を強化し、創業関心層へ効果的に情報発信を行う。	創業支援対象者数 22件 創業者数 6件	経済産業省から認定を受けている「創業支援等事業計画」に基づき、受講生一人ひとりに十分な支援をするために22名としている。	産業振興推進課
30		02	07	社会人の学び直しの支援（リカレント教育・リスキリング）	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	八王子学園都市大学（いちよう塾）	成年	【事業目的】地域の大学等と連携を図り、大学等の知的財産、豊富な人材及び研究機能を市民の生涯学習に活用し、誰もが自由に学べる機会を確保する。高度で専門的な学習機会継続的ン位提供することにより、市民の生きがいづくりや地域の活性化に貢献することを目指し、併せて学園都市大学の開学により、市民が大学等をより身近に感じられる学園都市を実現する。 【R7の実施状況】講座数 254（一般講座 198、公開講座 56） 受講者数 4,471	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	一般講座開講率95%以上	年間300講座を目標に、一般講座と公開講座を合わせて開催する。また、オンデマンド講座については12講座以上（正規科目を含む）を目標とする。満足度を保ちつつ、講座の提供数や受講者数の減少を改善する必要がある。	96%	参加者からは、専門的な内容であっても分かりやすく、社会の変化や制度への理解が深まったとの声が寄せられた。こうした反応から、市民が主体的に学び直しに取り組む意欲を高めるとともに、実生活に学びを生かす機会の創出につながっていると考えられる。	A	継続	【評価理由】一般講座の開講率が設定した目標値を上回って達成されたため。 【今後の方向性（改善策）等】引き続き、大学コンソーシアム八王子加盟校と連携し、各年齢層のニーズに応じた講座を提供していく。また、新たな受講者層にも関心を持ってもらえるよう、講座内容等について工夫し、魅力的な講座の開講を目指す。	95%以上	満足度を維持しつつ、より多様な学習機会を提供するため。	学園都市文化課
31		02	08	生涯学習の相談体制の充実	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	生涯学習相談	どなたでも	【事業目的】生涯学習活動のきっかけづくり及び支援 【R7の実施状況】生涯学習情報を提供するほか、サークル結成・運営などの学習要望に対して助言する。	その他	相談体制の構築	相談体制の構築を引き続き行っていく。	相談体制の構築	窓口及び電話にて、「パソコンを教えてください」・「体操をしている団体を教えてください」などの学習相談を年間を通して受けて、サークル・や主催講座などの情報を提供した。	A	継続	【評価理由】窓口及び電話にて学習相談を実施し、内容に応じた生涯学習情報を提供した。 【今後の方向性（改善策）等】引き続き生涯学習相談を実施していく。	相談体制の構築	相談体制の構築を引き続き行っていく。	学習支援課
32		02	08	生涯学習の相談体制の充実	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	学習支援委員による相談	どなたでも	【事業目的】生涯学習活動のきっかけづくり及び支援 【R7の実施状況】青少年活動の応援、国際交流や伝統文化の普及、家庭教育、サークル・団体活動のサポート等、学習支援委員がそれぞれの得意分野を活かして、生涯学習活動に関する相談を受け、助言や情報提供を行う。	普及・啓発（情報発信、チラシ配布等）	学習相談の機会を増やす	学習相談の機会を引き続き増やしていく。	学習相談の機会増加	「スマホ教室」「パソコン講座」「アロマテラピー講座」など、講座の講師を探している市民からの相談を受け、それぞれの得意分野を活かした講座を実施できる学習支援委員を紹介し、生涯学習活動の支援をした。	A	継続	【評価理由】対面に加えてオンラインツールも活用し、市民の学習活動を支援した。 【今後の方向性（改善策）等】学習支援委員と連携をとりながら、さまざまな形で市民の生涯学習活動を支援していく。	学習相談の機会を増やす	学習相談の機会を引き続き増やしていく。	学習支援課
33		02	09	生涯学習機会の情報発信と参加の促進	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	SNS による生涯学習講座・イベント情報の発信	どなたでも	【事業目的】生涯学習活動のきっかけづくり及び支援 【R7の実施状況】講座・イベント・フリースペースの情報について、FacebookとXを通じて発信する。	その他	発信体制の構築	発信体制の構築を引き続き行っていく。	発信体制の構築	講座・イベント・フリースペースなどの情報について、FacebookとXを通じて発信を行った。講座やイベントのアンケート結果に、「SNSの情報から講座やイベントを知って参加した」という声があった。	A	継続	【評価理由】講座やフリースペースの開催状況について随時情報発信した。（Xフォロワー数 2,525人） 【今後の方向性（改善策）等】講座やフリースペースの開催状況について随時情報を発信する。	発信体制の構築	発信体制の構築を引き続き行っていく。	学習支援課

各事業評価シート
【基本施策1 誰もが学べる環境の整備
施策の展開② 多彩な学習環境の充実】

番号			生涯学習プラン		未来デザイン2040	基本情報			量的成果				質的成果		自己評価			次年度の目標		担当課
	施策の展開	具体的な施策	施策名	施策番号	施策名	事業名	対象者	事業目的・R7の実施状況	評価指標	R7目標値	R7目標値の理由・根拠	R7実績値	参加者の声・学びの様子（120字程度）	評価	事業の方向性	評価の理由・今後の方向性（改善策）等	R8目標値	R8目標値の理由・根拠		
34	02	09	生涯学習機会の情報発信と参加の促進	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	イベントカレンダーによる情報発信	子ども	【事業目的】 小中学生向けのイベント等の情報提供を分かりやすく行うことで、学習活動の場を広げる。 【R7の実施状況】 夏休み期間中に実施する小学生向けの事業を集約した小冊子「夏休みイベントカレンダー」など、学習情報を一元化して市民に分かりやすく情報提供する。	普及・啓発（情報発信・チラシ配布等）	分かりやすい情報の提供	令和6年度に引き続き、市ホームページやGIGAスクール端末への掲載によるデータでの提供を主とし、イベントの情報発信を行うにあたり、わかりやすい情報の提供を目標とした。	発行部数：700部、データ提供	生涯学習センターの催しのなかには、学校で配布されたイベントカレンダーを通じて、興味のある学習イベントを探し、家族や友だちと相談して参加する様子が見られた。参加児童からは「楽しかった」「また参加したい」といった声があり、学習への関心を高めるきっかけとなった。	A	継続	【評価理由】 紙面にイラスト等を使用し、分かりやすく情報を提供できた。 【今後の方向性（改善策）等】 より多くの児童生徒・保護者に確実に情報を届けられるよう、冊子の配布と同時期に市ホームページやGIGAスクール端末上で公開を行い、効果的な広報を図る。	適切な時期のデータ提供	小学校児童に十分に周知が行き届くように適切な時期のデータ提供を行う。	学習支援課	
35	02	09	生涯学習機会の情報発信と参加の促進	1-1	市民自治の推進	市民センターだよりの発行	どなたでも	【事業目的】 地域住民協議会が発行する情報誌を活用し、身近な地域情報を発信する。 【R7の実施状況】 17住民協議会 33回発行	普及・啓発（情報発信・チラシ配布等）	34回発行（17住民協議会 年2回）	各住民協議会が身近な情報等を掲載し、地域情報源として活用されることを目的に、年2回の発行を目標とした。	33回発行	センターまつりをはじめとした各種地区イベントの報告、地域コミュニティ活動の紹介、地区の歴史紹介、安心・安全・健康に関する身近な情報等を掲載することで地域情報源として興味を持ってもらうことが出来た。	A	継続	【評価理由】 身近な情報源の一つとして、地域に根付いた情報紙の発行に取り組み、概ね予定通り発行することが出来た。 【今後の方向性（改善策）等】 白黒印刷で発行しているがカラー印刷を使用する住民協議会もある。また、写真掲載は個人が判別できるものや作品に氏名記載のもの等、技術の進歩で画像が鮮明となり配慮が必要なケースも増え、今後も査閲確認が必要と考える。	34回発行（17住民協議会 年2回）	各住民協議会が主体となり、紙面の一層の充実を図り、身近な地域情報源として引き続き発行に取り組む。	協働推進課	
36	02	11	新たな読書環境の整備	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	学習・スキルアップの支援（自習スペースの開放）	どなたでも	【事業目的】 自主的な学習を支援するとともに、図書館利用を促進する。 【R7の実施状況】 従来の中央館のほか、生涯館、南大沢館、川口館でも開放した。	参加者数・利用者数・利用件数等	前年度（13,928人）を上回る利用者数	事業目的を踏まえ、多くの利用者に使ってもらうことが重要だが、席数の制限もあることから、前年度を上回る程度を目標値とした。	【利用者数】 28,293人	日々の見回りで利用状況を確認しているが、試験期間を中心とした学生のほか、社会人として自主的な勉強をする場として、幅広い世代の利用がうかがえた。空調の効いた静かな環境で集中しやすい環境づくりができているように感じた。	A	継続	【評価理由】 自主的な学習を支援する場として、質的にも量的にもニーズを満たせていると思われるため。 【今後の方向性（改善策）等】 利用者の状況を踏まえつつ継続して運用する。	前年度を上回る利用者数	事業目的を踏まえ、多くの利用者に使ってもらうことが重要だが、席数の制約もあることから、前年度を上回る程度を目標値とした。	図書館課	
37	02	11	新たな読書環境の整備	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	レファレンスサービスの充実	どなたでも	【事業目的】図書館条例施行規則第2条(1)ウの「調査研究の援助」により、窓口・オンライン・郵送・電話等で受付を行い利用者の利便性の向上を図る。 【R7の実施状況】 窓口・オンライン・郵送・電話等の受付を行った。オンライン受付についてはR6年度末に東京電子自治体共同運営電子申請・届出サービス終了に伴いLogoフォームに切替えてから初年度であったが影響なく実施できている。	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	窓口等受付人数26,000人 オンライン受付人数10人	調査研究の援助の成果把握のため、受付件数を評価指標とした。またオンラインによる受付件数がどの程度か分かるようオンライン受付件数は別掲とした。コロナ禍以降減少傾向にあったが、回復状態となったR6年度の受付件数程度を基準値とした。	窓口等受付人数28,032人 オンライン受付人数26人	非来館型サービスであるオンライン申請の充実により、調査の依頼手段の幅が広がっている。様々な依頼手段による内容も簡易なものから専門性が高いものまで多岐にわたり、活発な調査活動がみられている。	A	継続	【評価理由】 Logoフォームによる非来館型サービスであるオンライン申請を行った。問い合わせ内容も多岐にわたり、多くの市民の調べものの一助に寄与している。他所管からの問い合わせも対応している。 【今後の方向性（改善策）等】 対個人だけでなく庁内所管課を対象とした図書館サービスの周知・提供を行う。所蔵資料では解決しない事例があり、上位の都立図書館や国立国会図書館との連携を深めていく必要がある。	窓口等28,050人 オンライン50人	前年度の件数を上回る件数とした。	図書館課	

各事業評価シート

【基本施策 1 誰もが学べる環境の整備
施策の展開③ 共生社会の実現に向けた生涯学習の支援】

番号		生涯学習プラン		未来デザイン2040		基本情報			量的成果			質的成果		自己評価			次年度の目標		担当課
	施策の展開	具体的な施策	施策名	施策番号	施策名	事業名	対象者	事業目的・R7の実施状況	評価指標	R7目標値	R7目標値の理由・根拠	R7実績値	参加者の声・学びの様子（120字程度）	評価	事業の方向性	評価の理由・今後の方向性（改善策）等	R8目標値	R8目標値の理由・根拠	
38	0-3	1-2	誰一人取り残されないための学習機会の提供	2-1	誰もが心豊かに暮らせる市民生活の推進	男女共同参画に係る講座の開催	どなたでも	【事業目的】 男女共同参画社会の実現に向けて、一人一人の個性と能力を発揮できるよう、意識啓発や参画のための学習機会を提供する。 【R7の実施状況】 性別にとられない私らしさ、好感を得る話し方、コミュニケーションのコツ、などさまざまなテーマの講座を年間7回開催した。	参加者等の満足度	80%以上	学習の効果を参加者の実感により把握するため参加者満足度を指標とし、講座に求めるものは個人個人で異なることを踏まえ参加者の大多数が高評価であったと判断できる80%以上を目標値とした。	96%	講座内容について「新たな発見ができた」「コミュニケーションへの理解が深まった」といった声が多く寄せられた。また、アンケートからは、「意識を変える手順が参考になった」など、意識に関する効果が一定数確認されており、意識啓発につながっている様子がうかがえた。	A	継続	【評価理由】 参加者満足度が目標値を上回り、意識を変えていくことにも効果があったと認められるため、総合的にA評価とした。 【今後の方向性（改善策）等】 講座のテーマを見直し、さらなる意識啓発を図る。	80%以上	講座のテーマを変えても、満足度は80%を超えるよう目標値を設定した。	男女共同参画課
39	0-3	1-2	誰一人取り残されないための学習機会の提供	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	国際理解講座	どなたでも	【事業目的】 外国の文化を理解し、外国人との交流を深めることで、多文化共生の推進を図る。 【R7の実施状況】 生涯学習センター3館で計11講座を開催し、677名が参加した。	参加者等の満足度	満足度85%以上	成果を講座参加者の実感から把握するため、参加者アンケート集計の「大変満足」「満足」の割合（満足度）を過去実績を踏まえて多数が高評価であったと判断できる85%以上を目標としている。	満足度90.7%	アンケート結果では「大変満足」「満足」という肯定的な回答が90.7%だった。参加者からは「現地で暮らしたことのある人ならではの詳しい話が聞けて良かった」「国名は聞いたことはあるものの、どこにあるかも知らなかった国のイメージが全く変わった」などの声があり、市民の多文化共生への理解が深まった。	A	継続	【評価理由】 アジアやアフリカを含む様々な国にフォーカスした講座を実施することができ、アンケート結果からも高い満足度を得ることができた。 【今後の方向性（改善策）等】 多文化共生を推進するためにも、外国の文化に対する理解を深める講座を開催する。	満足度85%以上	過去の参加者数が安定しており、現行水準の維持が妥当と判断し、参加者アンケート集計の「大変満足」「満足」の割合（満足度）を85%以上としている。	学習支援課
40	0-3	1-2	誰一人取り残されないための学習機会の提供	2-1	誰もが心豊かに暮らせる市民生活の推進	学習支援のための託児	親子・保護者	【事業目的】 子育て中の市民の学習支援として、満1歳～未就学児の託児サービスを提供し、女性の社会参画の促進を図る。 【R7の実施状況】 子育て中の市民（女性）の学習活動の支援を行った。	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	200人	事業目的を踏まえ、多くの市民が学習支援として利用することが重要であると考えるため利用保護者数を指標とし、過去実績を踏まえ200人以上を目標値とした。	169人	「託児サービスを利用して資格を取るための学習を行い資格を取ることができた」、 「託児サービスを利用したことにより集中して学習を行うことができた」、などの声が利用者からあった。	B	改善	【評価理由】 学習支援のための託児事業は、相談者託児事業や附属機関等参加者託児事業と併用で行っており、対象者も市内在住の女性でクリエイトホール内の施設で資格取得や就職のための学習活動を行うために1歳から就学前までの子の託児が必要な方とかなり限定されている。また、令和7年度は継続利用者（日本語教室の受講者）がいなかった。こういった事情があったが、参加者数が減少し目標を下回ったためBとした。 【今後の方向性（改善策）等】 相談者託児事業や附属機関等参加者託児事業の拡大が見込まれ、学習支援のための託児にかけられる時間は減少することが予想されるが、従来のホームページによる広報や対象者になる市民へのチラシによる周知に加え、SNSによる周知をするなど、周知の方法を工夫しつつ、継続していく。	200人	多くの市民が学習支援として利用することを進める段階として、目標値を据え置いた。	男女共同参画課
41	0-3	1-2	誰一人取り残されないための学習機会の提供	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	対面朗読	障害者	【事業目的】 視覚障害者のためにボランティアが図書や持参した墨字を読む。 【R7の実施状況】 中央図書館…利用回数78 生涯学習センター…利用回数168 南大沢図書館…利用回数85 川口図書館…利用回数75	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	【延べ利用回数】400人	利用ニーズ等を考慮し、令和6年度実績と同等の利用とした。	【延べ利用回数】406回	対面朗読は、視覚障害者が本や資料の内容を自分のペースで正確に理解できるよう支援するサービスである。利用者からは「必要な情報を確実に得られ、相談しながら読み進められる安心感や、学習・生活の幅が広がる」ことに満足感を得ているとの声が上がっている。	A	継続	【評価理由】 例年通りの利用回数であり、事業のニーズはほぼ横ばいで推移している。一方で、事業の性質上、各回において定性的な評価が難しい部分もあった。 【今後の方向性（改善策）等】 事業の規模を継続するが、事業へのフィードバックや検証方法については、検討を要する。	中央図書館…利用回数80 生涯学習センター…利用回数170 南大沢図書館…利用回数90 川口図書館…利用回数80	利用ニーズ等を考慮し、令和7年度実績と同等の利用とした。	図書館課
42	0-3	1-3	健康寿命の延伸につながる生涯学習の取組	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	市民いきいきリフレッシュ体操	成年	【事業目的】 市内の各市民センターで健康体操教室を開催し、市民の健康維持・増進を図る 【R7の実施状況】 市内の各市民センターで80回実施	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	3,000名	教室への参加状況を示す指標として参加者数を用い、前年度実績を基に15%の増加を見込む目標値を設定した。	2,059名	アンケートは行っていないが、参加者からは教室を楽しんでいる様子が確認できた。	A	継続	【評価理由】 指導員減のため実施回数も減少したが、1回あたりの参加人数は増加した。 【今後の方向性（改善策）等】 事業を業務委託へ移行することから、プログラムの更なる質的向上と実施回数の増加を図る。	3,000名	業務委託へ移行することにより、実施回数の増加を予定していることから、目標値を据え置いた。	スポーツ振興課
43	0-3	1-3	健康寿命の延伸につながる生涯学習の取組	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	ゆうゆうシニア講座	シニア	【事業目的】 シニア世代の生きがいづくりや健康維持を目的に、パソコン・スマートフォンなどの機器に関連する講座や健康維持に関するプログラムなどを提供する。 【R7の実施状況】 生涯学習センター3館で計26講座を開催し、1,095名が参加した。	参加者等の満足度	満足度85%以上	成果を講座参加者の実感から把握するため、参加者アンケート集計の「大変満足」「満足」の割合（満足度）を過去実績を踏まえて多数が高評価であったと判断できる85%以上を目標としている。	満足度86.6%	アンケート結果では「大変満足」「満足」という肯定的な回答が86.6%だった。参加者からは「ふだん運動をしないので参加できて良かった」「ゆったりした講座で安心して参加できた」などの声があり、シニア世代ならではのプログラムを提供することができた。	A	継続	【評価理由】 日々の生活に直接影響する健康やデジタル機器に関する講座を実施することができ、アンケート結果からも高い満足度を得ることができた。 【今後の方向性（改善策）等】 シニア世代の生きがいづくりや健康維持に役立つ幅広いプログラムを実施し、生涯にわたる学びの機会を提供する。	満足度85%以上	過去の参加者数が安定しており、現行水準の維持が妥当と判断し、参加者アンケート集計の「大変満足」「満足」の割合（満足度）を85%以上としている。	学習支援課

各事業評価シート

【基本施策 1 誰もが学べる環境の整備
施策の展開③ 共生社会の実現に向けた生涯学習の支援】

生涯学習プラン				未来デザイン2040		基本情報			量的成果				質的成果		自己評価			次年度の目標		担当課
番号	施策の展開	具体的な施策	施策名	施策番号	施策名	事業名	対象者	事業目的・R7の実施状況	評価指標	R7目標値	R7目標値の理由・根拠	R7実績値	参加者の声・学びの様子（120字程度）	評価	事業の方向性	評価の理由・今後の方向性（改善策）等	R8目標値	R8目標値の理由・根拠		
44	0-3	1-3	健康寿命の延伸につながる生涯学習の取組	2-3	保健医療の充実	健康づくりサポーターの養成	成年	【事業目的】 健康づくりサポーター（以下、「サポーター」という。）が地域においてさまざまな活動を行うことにより、市民が生涯を心豊かにいきいきと生きがいをもちて暮らせるよう、健康づくりを推進することを目的とする。 【R7の実施状況】 養成は1回/2年であり、令和7年度は養成なし。活動支援としてフォロー講座を5課で協力して11回実施。	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	156人	令和7年度は養成講座の実施はなく、既存の登録者に対してフォロー講座を実施する年であることから令和7年4月時点の登録者数を目標値として設定した。	151人	定例のフォロー講座は、188名の申し込みがあり、延べ138名が参加した。講座後の事後アンケートでは、参加者全員がサポーター活動や自身の健康づくりに活用できると回答し、「地域でのサロン活動などで紹介したい」「自分が思っていたことと異なることが多く参考になった」などの声が多数あった。 年度末の活動状況アンケートでは、R7年度は地域で延べ5,577回の活動があり、一番多くが「地域での自主活動（89名）」次いで保健福祉センターでの活動、高齢部門での活動で多く場で活動していただいた。	B	改善	【評価理由】 サポーター養成の目的と養成内容が介護予防に偏っている現状を踏まえ、次年度の養成の方法や内容を関係所管と共に検討、調整を行った。 養成講座が平日5日間全日かつ、活動場所である3保健福祉センターの会場を回る形での参加となるため、参加のハードルが高く申し込み件数が限られたと考えられた。 【今後の方向性（改善策）等】 令和8年度の養成講座は基本編と専門編に分け、参加しやすいよう、5日間の養成を3日間に変更。また会場も駅の近くのみにし、日程も日曜日にも混ぜて実施することとする。	176人	令和8年度は養成講座を実施する年であり、新規登録者の増加が見込まれるため、講座定員（25名）を踏まえ、登録者数176人を目標値とした。	健康づくり推進課	
45	0-3	1-3	健康寿命の延伸につながる生涯学習の取組	2-3	健康医療の充実	健康測定会	どなたでも	【事業目的】 市民の健康寿命の延伸を目指し、企業・関係機関と連携を図りながら、健康講座や測定会等を実施する。 【R7の実施状況】 生活習慣病予防やフレイル予防に関する出張講座・測定会を開催した。	その他	自分の健康を振り返るきっかけとなった95%	自らの健康へ意識変化や気づきを評価するため、左記項目を設定し、R6年度からの維持を目標とした。	96%	健康講座や測定会に参加することで、自分自身のからだや健康について振り返るきっかけとなったという声や学んだことを生活の中にも取り入れていきたいという声が多く聞かれた。	A	継続	【評価理由】 評価指標も目標値に達しており、一定の啓発効果をもたらすことができたと考ええる。 また、参加者から行動変容についての声もあり、効果のあるものであったと考ええる。 【今後の方向性（改善策）等】 地域の課題やニーズを把握しながら、より効果的な展開ができるよう、引き続き企業や関係機関と連携しながら取組を進める。	96%	現在の目標値としてもすでに高いものであり、事業内容等を改善しながら、現状維持を目指す	成人保健課 大横・東浅川・南大沢 保健福祉センター 担当：南大沢・黒田	
46	0-3	1-4	デジタルとアナログを両立させた図書館サービスの拡充	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	電子書籍の充実	どなたでも	【事業目的】 電子書籍の拡充やホームページの充実等、非来館型サービスの充実により「いつでも、どこでも、だれでも」読書に親しめる環境づくりや、本市のDX施策の推進を目指す。 【R7の実施状況】 図書館における電子書籍の拡充、HP等による情報発信の充実を図りながら実施した。	参加者数・利用者数・利用件数等	【電子書籍貸出数】50,557回、【閲覧数】270,713回以上	令和6年度は電子書籍貸出数50,557回、タイトル数17,813点、閲覧数270,713回の実績があった。電子書籍の拡充および情報発信の充実により利用増が見込まれることから、前年度実績を上回る水準として令和7年度の目標値を設定した。	【電子書籍貸出数】38,336回、【閲覧数】300,272回	利用者からは、「紙の書籍に比べて衛生的で、持ち運び不要であり、延滞が発生しない（返却の手間がない）」ので便利であるという声を受けている。	A	継続	【評価理由】 様々な利用ニーズがある中、図書館まで足を運ぶことが難しい利用者の方にとっては時間、空間的な制約を受けず利用できる電子書籍を充実させることで、図書に親しむ、触れ合う機会の拡充に繋がっている。 【今後の方向性（改善策）等】 「読み放題パック」と呼ばれる、複数人が同時閲覧できる仕組みの電子書籍が充実してきたことから、魅力的な図書が含まれる「読み放題パック」を選定し、更なる閲覧数の向上を目指す。	【電子書籍貸出数】40,000回、【閲覧数】310,000回	電子書籍の貸出数を維持するとともに、閲覧数の向上を目指す。	図書館課	
47	0-3	1-4	デジタルとアナログを両立させた図書館サービスの拡充	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	オンラインデータベースの活用	どなたでも	【事業目的】 図書館条例施行規則第2条（1）ウの「調査研究の援助」のため、新聞記事や法律情報、判例などオンラインデータベースを図書館で利用することで市民の調査活動の利便性向上を図る。 【R7の実施状況】 膨大な情報量であるデータベースの活用をサポートできるよう、判例情報のデータベースの活用について、司書に研修を実施した。	普及・啓発（情報発信・チラシ配布等）	オンラインDB利用回数200回	市民のオンラインデータベース利用件数をもって調査研究支援の成果を測る指標とし、司書研修による支援体制の充実を踏まえ、目標値を利用回数200回に設定した。	オンラインDB利用回数227回	新聞記事や判例のデータベースが年々充実しており、より調査活動が深まっており、オンラインにより検索しやすくなることで、調査活動の利便性向上につながっているのが見受けられる。	A	継続	【評価理由】 司書に研修を実施したこともあり、新聞記事や判例など膨大なデータベース利用を通して調査研究活動の援助を実施することができている。 【今後の方向性（改善策）等】 今後も司書にデータベースの研修を実施していくことで、市民の活用をサポートできるようにしていく	オンラインDB利用回数230回	図書館で利用できるデータベースを周知啓発することで段階的に目標値を引き上げた。	図書館課	
48	0-3	1-4	デジタルとアナログを両立させた図書館サービスの拡充	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	高齢者・障害者への図書宅配サービス	高齢者・障害者	【事業目的】 身体に障害のある、または要介護状態等で在宅生活をしている利用者の自宅にリクエスト本を届ける。 【R7の実施状況】 利用実績：191件	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	実施回数142件	一人の宅配実施者が1日に複数の利用者を訪問することから、実施日数ではなく、訪問回数を指標として設定する。	実施回数191件	利用者から幅広い分野の図書についてリクエストが寄せられていることから、読書活動の内容や関心の広がりが見てとれる。	A	継続	【評価理由】 多様な分野の図書を利用者に届けることができており、利用者がいつでも・どこでも読書活動に親しめる環境づくりを支援できている。 【今後の方向性（改善策）等】 宅配ボランティアの高齢化に伴い担い手の減少傾向が見られるため、今後さらに利用者の高齢化が進むことを見据え、ニーズに的確に対応できるよう、担い手の確保や活動体制の見直しを検討していく必要がある。	実施回数200回	引き続き、ニーズを的確に捉えつつ、今年度を上回る回数となるよう、利用の促進を行う。	図書館課	

各事業評価シート

【基本施策2 社会を創る学びの推進
施策の展開④ 学校、家庭、地域で支える子どもの成長】

番号		生涯学習プラン		未来デザイン2040		基本情報			量的成果				質的成果		自己評価			次年度の目標		担当課
	施策の展開	具体的な施策	施策名	施策番号	施策名	事業名	対象者	事業目的・R7の実施状況	評価指標	R7目標値	R7目標値の理由・根拠	R7実績値	参加者の声・学びの様子（120字程度）		評価	事業の方向性	評価の理由・今後の方向性（改善策）等	R8目標値	R8目標値の理由・根拠	
49	0-4	1-5	地域と学校との連携・協働を基盤とした生涯学習活動	3-1	全ての子どもが健康やかに育つ地域づくり	学童保育所	子ども	【事業目的】 保護者の就労等の理由から、放課後に保育を必要とする児童を対象に、遊びを中心として異年齢集団の中で一人一人の健全な成長を手助けする。 【R7の実施状況】 延べ登所児童数 1,155,996人	その他	待機児童ゼロを維持する。	小学校の特別教室を借用する等の方策により、令和4年から引き続いて待機児童ゼロを維持した。	待機児童ゼロを維持することができた。	夏季休業中の昼食提供については、全施設での実施を達成した。利用者からは、普段とは異なる場所で異学年と一緒に、温かく慣れ親しんだおいしい給食メニューの昼食を食べることで、食事の楽しさを感じられる取組であったとの声があった。 また、保護者の出勤前の慌ただしい時間帯における、お弁当作りの負担軽減につながる有効な取り組みであり、昼食提供事業を子どもが楽しみにしていることも、保護者の満足度を上げる一助となったと考えられる。		A	継続	【評価理由】 学童保育所を必要とする、全ての子ども達が、安全安心な放課後時間を過ごせる居場所を確保した。 【今後の方向性（改善策）等】 学校施設を活用するとともに、児童数が増加している小学校区については、学校内の整備や周辺のテナントを借用することで、待機児童ゼロを維持する。	待機児童ゼロを維持する。	更なる共働き家庭等の増加が見込まれており、一部の小学校では、児童数も増加している。子ども達が孤立しやすい放課後の時間に、小学校施設を活用し、放課後を安全・安心に過ごせる居場所を確保する。	放課後児童支援課
50	0-4	1-5	地域と学校との連携・協働を基盤とした生涯学習活動	3-1	全ての子どもが健康やかに育つ地域づくり	放課後子ども教室	子ども	【事業目的】 地域の人材、ボランティアの参画を得て、子どもたちに放課後の安全・安心な居場所を提供するとともに、学び・体験・遊び・交流活動等を行い、子どもの次代を担う力を育成するためのしくみづくりに資する。 【R7の実施状況】 延べ実施日数 11,938日 ※朝の子ども教室含む	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	延べ実施日数 10,323日	実施日数の拡充や活動内容の充実など、学童保育所との連携による放課後の居場所づくりと、持続可能な放課後子ども教室の運営に取り組めた指標として放課後子ども教室の開催日数とした。	11,938日	放課後子ども教室の実施日には、校庭で遊ぶ児童や、教室での学習活動を行う児童がいるなど、遊びや学習では学年を超えて交流している。 また、体験活動（イベント）では児童は積極的に参加し、「できた」、「楽しい」などの声があり、イベントを通じ様々な体験ができています。		A	継続	【評価理由】 週5日実施校数の拡大により、放課後における継続的な居場所の提供体制を整備した。また、地域人材やボランティアの参画により、遊びや学習、体験活動を日常的に実施できる環境を構築することができた。さらに、全実施校で体験活動の機会を確保するため、出張体験講座やあそびの出前事業を実施した。こうした取組を通じて、児童が「できた」「楽しい」といった成功体験を積み重ねる機会が提供されている。 地域と連携した継続的な活動の場を整備することで、学び・体験・交流を一体的に提供する仕組みづくりを推進し、子どもの次代を担う力の育成に寄与することができたため、A評価とする。 【今後の方向性（改善策）等】 子どもたちに放課後の安全・安心な居場所を提供するとともに、学び・体験・遊び・交流活動等を行う機会を増やしていく。	延べ実施日数 12,514日	放課後子ども教室の活動日が拡大することで、学び・体験・遊びなどの体験活動の機会が増える。	放課後児童支援課
51	0-4	1-5	地域と学校との連携・協働を基盤とした生涯学習活動	3-2	未来をひらく子どもを育てる教育	地域学校協働活動の推進	どなたでも	【事業目的】 地域人材等を効果的に活用し、学校が必要とする支援を行う。 【R7の実施状況】 学校活動支援人材バンクを活用して学校活動の支援を行うとともに、地域学校協働活動推進員向けの研修を実施し、地域人材の活動の幅を広げた。	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	24557人	活動の広がり及び参画状況を把握する指標として参加者数を設定した。また、これまでの実績や実施状況を踏まえ、目標値を設定した。	19105人	2回実施した地域学校協働活動推進員研修では、活動に対する方向性を学ぶことができた、横の繋がりを作ることができた、他校の活動が参考になった、相談相手を作ることができた、など、非常に有意義だったという意見が多数あった。		A	継続	【評価理由】 学校が必要とするボランティア活動を実施できた。また地域学校協働活動推進員に対して必要な研修を実施することができた。 【今後の方向性（改善策）等】 引き続き、地域人材等を効果的に活用し、学校が必要とする支援を行う。またアンケート結果を反映し、推進員研修の充実を図る。	25362人	活動の広がり及び参画状況を把握する指標として参加者数を設定した。また、これまでの実績や実施状況を踏まえ、目標値を設定した。	地域教育推進課
52	0-4	1-5	地域と学校との連携・協働を基盤とした生涯学習活動	3-1	全ての子どもが健康やかに育つ地域づくり	子育て講座	その他（乳幼児および保護者）	【事業目的】 乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所として、子育てについての相談、情報提供、助言・援助等を行う。 【R7の実施状況】 各広場ごとの特色を活かし、工作や産後の身体に関するものなど様々な講座を実施した。また、七夕やクリスマスなどの季節感を取り入れたイベントを通じて、参加者が行事を身近に感じられる機会を提供した。	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	講座 2450回	来館者のニーズに合った講座を実施することで子育て力を養う。目標値については、R6の実績値を参考に設定。	講座 2569回	参加者アンケートには、「身体ケア講座において、助産師から産前の悩み相談や出産に向けた助言を受けることができ、有意義であった」や、「ペーパークラフト講座では、制作を通じて達成感を得られ、気分転換にもなり楽しかった」といった声が寄せられており、各講座において、知識や体験による学びに加え、リフレッシュ効果も得られている様子がうかがえた。		S	継続	【評価理由】 ほぼ毎日のように講座やイベントを実施している広場もあり、講座実施回数において目標値を大きく上回る実績値であった。また、アンケート結果からは、講座を目的とした来館者が一定数見られるとともに、講座やイベントへの参加を通じて保護者同士の交流が促進され、リフレッシュの機会としても機能していることが確認された。さらに、これらの取組を通じて、来館者が気軽に交流できる環境が整えられており、子育てに関する相談や情報交換が行われる機会の創出にもつながっている。以上を踏まえ、本事業は、親子及び保護者同士の相互交流の促進並びに子育てに関する相談・情報提供の機会の充実という事業目的を十分に上回って達成しており、地域における子育て支援機能の向上に寄与していると評価できる。 このことから、本事業は目的を大幅に達成していると判断し、S評価とした。 【今後の方向性（改善策）等】 引き続き、多様な子育てに関する講座を継続的に実施するとともに、季節感を取り入れたイベントの実施にも取り組む。	講座 2570回	引き続き事業の着実な実施に努めることとし、講座の実施回数および内容については一定の充実が図られていることから、目標値は現状維持とした。	こども家庭センター

各事業評価シート

【基本施策2 社会を創る学びの推進
施策の展開④ 学校、家庭、地域で支える子どもの成長】

生涯学習プラン				未来デザイン2040		基本情報			量的成果				質的成果		自己評価			次年度の目標		担当課
番号	施策の展開	具体的な施策	施策名	施策番号	施策名	事業名	対象者	事業目的・R7の実施状況	評価指標	R7目標値	R7目標値の理由・根拠	R7実績値	参加者の声・学びの様子（120字程度）	評価	事業の方向性	評価の理由・今後の方向性（改善策）等	R8目標値	R8目標値の理由・根拠		
53	04	15	地域と学校との連携・協働を基盤とした生涯学習活動	3-1	全ての子どもが健康やかに育つ地域づくり	子ども・若者育成支援センター事業「子ども・若者育成支援センター乳幼児クラブ」	乳幼児	【事業目的】 乳幼児とその保護者に遊びと交流の機会を提供し、親子の心身のリフレッシュを図る。各子ども・若者育成支援センターにおいて年齢ごとにクラブを設定し、参加希望者を募る。1年齢につき週1～2回のペースで開催し、色々な遊びや交流のプログラムを用意し、親子で楽しい時間を過ごす。 【R7の実施状況】 インフルエンザの感染拡大期には、密にならないよう留意しながら実施した。	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	1700回	令和6年度の実施回数が1764回であり、令和6年度末に1館廃館し、館数が減少したため。 （令和7年度 1959回）	1959回	参加した保護者・乳幼児からはリラックスした様子や明るい雰囲気が伺えたほか、参加保護者間の交流が図られ、楽しかった、また来たい、といった声があった。	A	継続	【評価理由】 令和6年度末に1館廃館し、館数が減少したにも関わらず、目標値を上回ることができたため。 【今後の方向性（改善策）等】 気候や感染症の流行状況を注視しながら、継続実施する。	1700回	令和7年度末にも更に1館廃館し、館数が減少したため、減少前の実施数と同数の実施を目標とする。	青少年若者課（子ども・若者育成支援センター）	
54	04	16	地域と学校部活動の連携による多様な体験活動の提供	3-2	未来をひらく子どもを育てる教育	持続可能な学校部活動の仕組みづくり「部活動指導員の配置」	その他（市立学校の児童、生徒及び教師）	【事業目的】 部活動指導員及び部活動指導補助員を適正に配置し、部活動指導の質の向上をはかる。 【R7の実施状況】 部活動指導員を増員した。	指導員の配置数	27人	令和9年度までに各校平均1人（全体で37人）の部活動指導員の配置を目指し、段階的に増やすため、令和7年度は27人を目標とした。	24人	令和7年度中学校における部活動指導員配置事業の実施報告書において、教員の部活動負担軽減により確保された時間の活用状況として、「休日を休養に充てることができた」「平日は教材研究に充てることで、教育活動における指導内容の一層の充実を図ることができた」などの成果が確認された。	B	改善	【評価理由】 27名の配置には至らなかったが、広域部活動を実施する拠点校に重点的に配置したことにより、必要な指導体制や部活動への参加機会を確保することができた。 【今後の方向性（改善策）等】 専門性を活かした質の高い指導のもと、生徒が希望する部活動へ参加できる機会を確保できるよう部活動指導員及び部活動指導補助員を拡充していく。そのため、求める専門性や資質を有する人材を確保できるよう、募集情報を必要な対象者に効果的に届ける手法について検討する。	37人	どの学校にいても近隣の拠点校部活動（指導員配置の部活動）に参加できるよう、各校平均1人の指導員配置を目標とする。	学務課 教育指導課	
55	04	16	地域と学校部活動の連携による多様な体験活動の提供	3-2	未来をひらく子どもを育てる教育	地域団体の拡充	子ども	【事業目的】 市の部活動改革を推進するにあたり、市内の文化的活動団体との連携を図り、中学生が参加できる地域活動を開拓する。 【R7の実施状況】 市のホームページに掲載している中学生の受入れが可能な団体情報を拡充した。市内小中学校に周知チラシを配布した。各団体の活動場所をとりまとめはちおうじマップに公開した。	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	【文化団体】 80団体 【スポーツ団体】 140団体	【文化団体】 令和6年度末時点で74団体であり、市内6ブロックで各1団体増（計6団体増）を目標とした。 【スポーツ団体】 令和6年度末時点で108団体であり、30％の増加を目標とした。	【文化団体】 76団体 【スポーツ団体】 114団体	八王子市教育情報プラットフォーム（ハプラ）に掲載している地域団体の活動に参加した生徒が約10％いたことから、一定の効果はあったと言える。また、はちおうじマップにて活動場所を掲載したことにより、情報収集を行う手段を増やすことができた。	A	継続	【評価理由】 一部目標に達しなかったが、ハプラに掲載している地域団体の活動に参加した生徒が約10％いる等の効果を確認できたため、A評価とした。 【今後の方向性（改善策）等】 令和7年度までの実施内容を継続しつつ、地域クラブ活動認定制度の構築を機に、中学生が活動できる団体数の増を目指す。令和7年度までの実施内容の拡充を図りつつ、地域クラブ認定制度の構築を行う。	【文化団体】 80団体 【スポーツ団体】 170団体	学校部活動が拠点校に集約されていくことを踏まえ、地域団体のニーズが高まることが予想されるため、現状より幅広い活動機会を提供することを目標とする。	生涯学習政策課 スポーツ振興課	
56	04	16	地域と学校部活動の連携による多様な体験活動の提供	3-1	全ての子どもが健康やかに育つ地域づくり	子ども向けイベント等の情報収集・発信	親子・保護者	【事業目的】 妊娠期から就学前の子どもを持つ子育て世帯を主な対象に、次世代育成の取組や魅力ある子育て情報、イベント情報等を積極的に発信する。また市民及び市外居住者へ向けて「子育てしやすいまち」のイメージをさらに定着させる。 【R7の実施状況】 子育て応援サイトを通して、子育て支援情報や、子育て家庭からのニーズが高い園情報やイベント情報など、それぞれの特性を活かして分かりやすい情報の発信を行った。	普及・啓発（情報発信・チラシ配布等）	76.8%以上	第二期八王子市子ども・若者育成支援計画にて令和5年度の認知度76.8％を中間値である令和9年度、目標値である令和11年度において現状値を上回ることとしているため。	73.2%	子育て応援サイトの認知度に関する調査は毎年行っているが、利用者の声については聞き取りを行っていなかったため今後聴取方法について研究していく。	B	改善	【評価理由】 必要な情報を一元的に入手できるサイトとしての役割は浸透しており、事業目的に沿った成果が確認できているが、認知度が微減となったことから評価をBとした。 【今後の方向性（改善策）等】 サイトの利便性や情報の分かりやすさの向上を図る。特に、ライフステージや個々のニーズに応じた情報へのアクセス性を高めるとともに構成改善や定期的な情報更新を行い認知度を高めていきたい。	現状値以上	第二期八王子市子ども・若者育成支援計画にて令和5年度の認知度76.8％を中間値である令和9年度、目標値である令和11年度において現状値を上回ることとしているため。	子どものしあわせ課	
57	04	17	子育て世代がつながるきっかけづくり	3-1	全ての子どもが健康やかに育つ地域づくり	ファミリー・サポート・センター事業	成年	【事業目的】 子どもを見て欲しい依頼会員とボランティアの提供会員による相互援助活動。子育ての手助けをして欲しい人とお手伝いができる人が会員登録をして、子育てを地域で相互に助け合う活動を行う。 【R7の実施状況】 SNSや広報のほか、八王子駅北口地下自由通路及びはちバス車内にもチラシをはるなど、前年度に引き続き本事業の周知を行った。また、既存の提供会員にも救急救命講習の参加を促し、スキルアップを図った。	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	375人	提供会員を育成する講習の一部をオンラインで受講できるようにすることで、受講者の利便性を向上し、時間や場所に制限されることなくスキルアップが図れるようにする。 引き続き広報等で周知を継続し、昨年度の実績を基準に、現実的な増加数を設定。（R6実績 365人）	370人	提供会員を育成する講習の参加者からは、「八王子市の子育てを取り巻く現状を客観的に理解できた」や、子育て期を終えてから一定期間が経過した参加者からは、「近年の八王子市における育児・子育て支援体制について把握することができて良かった」といった意見が寄せられた。これらを通じて、現在の八王子市の子育て支援施策に対する参加者の関心の向上につながった。	A	継続	【評価理由】 退会者がいたため全体としては5名の増加にとどまったが、新規登録会員の実績を見ると15名増加していることから、この評価とした。 【今後の方向性（改善策）等】 提供会員を育成する講習の実施を年3回から4回に増やし、増員を目指す。	380人	オンラインでの講座実施は困難であるため、引き続き既存の実施方法により事業を継続することとする（実施回数は1回分増加）。また、1回の講座実施にあたり新規登録者数はおおむね5名程度にとどまっており、さまざまな事情による退会者も一定数見込まれることから、目標値については微増と設定した。	こども家庭センター	

各事業評価シート

【基本施策2 社会を創る学びの推進
施策の展開④ 学校、家庭、地域で支える子どもの成長】

番号		生涯学習プラン			未来デザイン2040		基本情報				量的成果			質的成果		自己評価			次年度の目標		担当課
		施策 の 展開	具体的 な施策	施策名	施策 番号	施策名	事業名	対象者	事業目的・R7の実施状況	評価指 標	R7目標値	R7目標値の理由・根拠	R7実績値	参加者の声・学びの様子（120字程度）	評価	事業 の方 向性	評価の理由・今後の方向性（改善策）等	R8目標値	R8目標値の理由・根拠		
58		04	17	子育て世代が つながるきっ かけづくり	3-1	全ての子 どもが健 やかに育 つ地域づ くり	親子つどいの広場	その他 （乳幼 児およ び保護 者）	【事業目的】 乳幼児及びその保護者が相互の交流を行 う場所として、子育てについての相談、 情報提供、助言・援助等を行う。 【R7の実施状況】 子育てに関する講座の中で、プレママ・ プレパパを対象としたものを一覧にまと め、チラシを作成。利用者支援事業の活 動の中で活用し、引き続き周知を図っ た。	参加者 数・利 用者 数・利 用件数 等 ※ 数量的 なもの	32380人	プレママ・プレパパを対象 としたイベント等を継続的 に実施するとともに、来館 者のニーズに即した講座を 展開することで、講座の参 加者数及び広場の来館者数 の増加を図る。 目標値については、R6の実 績値を参考に設定。	32473 人	「広場の講座で仲良くなった参加者やス タッフに親切にしてもらっている」「他の 参加者と交流できて嬉しい」といったアン ケートの記述が見られ、講座やイベントを 通じて参加者同士の交流が広がっている様 子がうかがえた。	A	継続	【評価理由】 プレママ・プレパパを対象としたイベント などを継続して実施するとともに、来館者 のニーズに合った講座を実施することがで きた。来場者数も増加傾向にあるため、継 続して事業運営に努める。 【今後の方向性（改善策）等】 講座の継続的に実施しつつ、地域における 安心して相談できる場所として、来場者の 増加を目指す。	32500 人	講座の実施回数および内容 については一定の充実が図 られていることから、参加 者数に大きな変動はないと 見込み、目標値は現状の実 績とほぼ横ばいとした。	こども家庭 センター	
59		04	17	子育て世代が つながるきっ かけづくり	2-1	誰もが心 豊かに暮 らせる市 民生活の 推進	子育て応援ひろば	親子・ 保護者	【事業目的】 子育ての中で生じる悩みなどを解消し、 子育て中の保護者を支援する。 【R7の実施状況】 子育て自主グループ3団体が活動する会場 利用を支援したほか、生涯学習センター3 館で計4講座を開催し、40名が参加した。	参加者 等の満 足度	満足度 90%以 上	成果を講座参加者の実感か ら把握するため、講座の参 加者アンケート集計の「大 変満足」「満足」の割合 （満足度）を過去実績を踏 まえて大多数が高評価で あったと判断できる90%以 上を目標としている。	満足度 97.7%	アンケート結果では「大変満足」「満足」 という肯定的な回答が97.7%だった。保護者 同士による悩みの共有や、関心あるテーマ に関する講座の実施などを通じて、保護者 からは「子供と一緒に学べる良い機会に なった」、子どもからは「親と一緒に楽し かった」などの声もあり、親子ともに役立 つ機会を提供することができた。	A	継続	【評価理由】 自主的なグループ活動のみでなく、市と連 携した講座の開催などを通じて、子ども の理解や子育てへの関心を高めることがで きた。 【今後の方向性（改善策）等】 子育て自主グループへの活動支援を継続す るとともに、広い視点での講座開催を協力 して実施する。	満足度 90%以 上	過去の参加者数が安定して おり、現行水準の維持が妥 当と判断し、子育て自主グ ループへの活動支援を継続 するほか、子育てに関連す るテーマについての講座を 協力して開催し、参加者ア ンケート集計の「大変満 足」「満足」の割合（満足 度）を大多数が高評価で あったと判断できる指標と する。	学習支援課	
60		04	17	子育て世代が つながるきっ かけづくり	2-1	誰もが心 豊かに暮 らせる市 民生活の 推進	家庭教育支援講座「星とおひさま Fika(フィーカ)キャラバン」ワーク ショップ	親子・ 保護者	【事業目的】 家庭教育支援講座を茶話会(Fika(フィー カ))形式のワークショップで行うことに より、保護者の心理的負担を軽減し、家 庭の教育力の向上を図る。 【R7の実施状況】 小学校19校、生涯学習センター1館（年 中・年長者の保護者を対象）1回の計22回 実施し、418人が参加した。	参加者 数・利 用者 数・利 用件数 等 ※ 数量的 なもの	15校	講座への参加状況を示す指 標として開催校数を用い、 前年度実績を踏まえた水準 で目標値を設定した。	19校＋ 生涯学 習セン ター1 館	アンケート結果では「良かった」「楽し かった」との肯定的な回答が99%だった。保 護者同士が子育ての悩みを共有すること で、不安の軽減につなげる機会を提供する ことができた。	S	継続	【評価理由】 小学校19校（前年度比6校増）での実施に加 え、未就学児保護者を対象とした講座を展 開するなど、事業規模および対象の拡充が 図られた。 参加者アンケートでは99%が肯定的な回答 であり、保護者同士が子育ての悩みを共有 できる場を提供することで、不安の軽減と 心理的負担の緩和に繋げることができた。 さらに、対話を通じた気づきや情報共有に より、家庭での子育てに活かせる学びが得 られている。参加者がPTA活動で茶話会形式 の保護者交流会を自主的に開催する動きも あり、保護者の心理的負担の軽減と家庭の 教育力の向上という目的を高い水準で達成 していると評価できるため、S評価とする。 【今後の方向性（改善策）等】 家庭教育支援チームとの協働により、講座 を開催する。	19校	講座への参加状況を示す指 標として開催校数を用い、 前年度実績を踏まえた水準 で目標値を設定した。	学習支援課	
61		04	17	子育て世代が つながるきっ かけづくり	3-2	未来をひ らく子ど もを育て る教育	市立小・中・義務教育学校への団体 貸出	その他 （市立 学校の 児童、 生徒及 び教 師）	【事業目的】 図書を小・中学校に提供し、学校サポー トセンターと連携して学校図書館を支援 する。図書館の配送便により、団体貸出し や調べ学習用の図書を小・中学校に提供 する。 【R7の実施状況】 貸出冊数 25,875冊 （うち学級文庫20,360冊、調べ学習5,515 冊） 利用校数 76校	参加者 数・利 用者 数・利 用件数 等 ※ 数量的 なもの	貸出冊 数 30,000 冊（うち 学級文 庫 24,000 冊、調 べ学習 6,000 冊） 利用校 数80校	令和6年度実績を踏まえ、 学校からの利用ニーズの継 続を見込んで実現可能かつ 段階的な拡充として前年度 比5%増とし、貸出冊数 30,000冊、利用校数80校を 令和7年度の目標値として 設定した。	貸出冊 数 25,875 冊（う ち学級 文庫 20,360 冊、調 べ学習 5,515 冊） 利用校 数76校	朝の読書などにGIGAスクール端末を使うこ とが影響し、紙の書籍を使った読書の割合 が減少しているようであった。 また、学級文庫の貸出方法について、現行 のFAXによる先着順の受付では申込がしにく いため、別の方法を検討して欲しいとの声 が上がった。	B	改善	【評価理由】 調べ学習用図書の貸出冊数は前年度と比 較して増加しており、学習支援機能として 一定の成果があった。一方、学級文庫につ いては貸出冊数が減少し、結果として貸出 冊数全体が減少した。要因として、学級文 庫の申込方法がFAXによる先着順であるた め、手続きの負担が大きく、利用しにくい 仕組みとなっていることや、ICT活用の進展 により、紙資料による読書ニーズが相対的 に低下していると考えられる点が挙げられ る。 【今後の方向性（改善策）等】 学校教育を支援するための調べ学習用図 書の充実にも努めるとともに、学校図書館か らの学級文庫の貸出申し込みについて、より 負担の軽い申込方法について検討する。	貸出冊 数 28,500 冊（う ち学級 文庫 23,000 冊、調 べ学習 5,500 冊） 利用校 数76校	学級文庫の貸出冊数を令和 6年度と同水準とするとと ともに、調べ学習の貸出数に ついては令和7年度と同水 準を維持することを目標と した。	図書館課	
62		04	18	地域や学校 との連携によ る多様な読書 機会の提供	3-3	学びを活 かせる生 涯学習の 推進	学校図書館サポートセンターとの連 携・支援	その他 （市立 学校の 児童、 生徒及 び教 師）	【事業目的】 学校司書との関係が深い学校図書館サ ポートセンターと連携し、学校図書館の 現状を理解するとともに利用しやすい 学校支援を検討する。 【R7の実施状況】 学校図書館サポートセンターの職員との 対面での打ち合わせを行い、学校司書が サポートセンターに上げている要望等につ いて共有した。	その他	学校図 書館サ ポート セン ターと 公共図 書館と の対面 での打 ち合わ せ回数 …1回	ここ数年、公共図書館の学 校支援担当と学校図書館サ ポートセンターの対面での 打ち合わせがなかったこと から、積極的な情報交換を 再開するための一歩として 設定した。	図書の 貸出方 法に対 する改 善の打 ち合わ せの実 施。	公共図書館が通常業務で聞く学校司書の意 見と、学校図書館サポートセンターに寄せ られる学校司書の意見に違いがある部分 があることがわかり、情報交換の重要性を改 めて認識した。	A	継続	【評価理由】 学校図書館サポートセンターからの意見を 踏まえ、学級文庫の貸出申込方法を改善す ることを決定したため。 【今後の方向性（改善策）等】 引き続き、対面を含めた学校図書館サポー トセンターとの継続的な情報共有を進める こととする。	学校図 書館サ ポート セン ターと の対面 での打 ち合わ せ…1 回 新たな 貸出申 込方法 の安定 的な運 用	今回学校図書館サポートセ ンターからの学校司書の声 を受け、令和8年度1学期分 から学級文庫の申し込み方 法を抽選方式にした。まだ 試行であることから、継続 して学校司書の意見を聞き つつ、安定的な運用を目指 す必要があるため。	図書館課	

各事業評価シート

【基本施策2 社会を創る学びの推進
施策の展開④ 学校、家庭、地域で支える子どもの成長】

生涯学習プラン			未来デザイン2040		基本情報			量的成果				質的成果		自己評価			次年度の目標		担当課
番号	施策 の 展開	具体的 な施策	施策名	施策 番号	施策名	事業名	対象者	事業目的・R7の実施状況	評価指 標	R7目標値	R7目標値の理由・根拠	R7実績値	参加者の声・学びの様子（120字程度）	評価	事業 の方向 性	評価の理由・今後の方向性（改善策）等	R8目標値	R8目標値の理由・根拠	
63	04	18	地域や学校との連携による多様な読書機会の提供	3-2	未来をひらく子どもを育てる教育	学校と連携した電子書籍の利用	その他（市立学校の児童及び生徒）	【事業目的】 市内小中学生全てに電子書籍が読めるアカウントを付与し、「いつでも、どこでも、だれでも」読書に親しめるよう、環境を整備する。また、学校の朝読書などのニーズに答える。 【R7の実施状況】 電子書籍を選書する際に、学校の読書活動に使用できる図書を一定数含むようにしている。	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	学校全体ログイン数87,000件	令和6年度の学校全体ログイン状況を踏まえ、一定程度の利用増が見込まれることから、前年度実績より1,000件増となる87,000件を目標値として設定した。	学校全体ログイン数90,108件	GIGAスクール端末が全生徒に配布されていることから、同時閲覧の人数に制限のない「読み放題パック」の図書を朝読書の時間に活用していると聞いている。	A	継続	【評価理由】 昨年度比で利用が約4000件増えたため。 【今後の方向性（改善策）等】 引き続き、電子書籍を選書する際に、学校の読書活動に使用できる、魅力的な図書を選書するようにする。	学校全体ログイン数92,000件	昨年度比2％増を目指す。	図書館課
64	04	18	地域や学校との連携による多様な読書機会の提供	3-2	未来をひらく子どもを育てる教育	職場体験 「地域の学校との連携活動」	子ども（保護者含む）	【事業目的】 図書館業務を体験し、理解していただくことにより、図書館の魅力を伝えるところにも利用についての普及啓発を図る。 職場体験や選書体験等を通じて、子どもたちに図書館の機能や魅力を伝えるところにも、図書館に対する意見等を聞くことで図書館ニーズを把握し、利用促進につなげる。 【R7の実施状況】 小学生を対象とした施設見学、中学生を対象とした職場体験を実施した。	参加者数・利用者数・利用件数等	参加者数2,200人	令和7年5月1日から川口館が再開館することから、目標値を令和5年度の目標値に準ずる値とした。	参加人数1,619人	図書館の職場体験を通じて図書館業務に興味・関心をもち電子書籍を増やしてほしい要望や館内のレイアウトの気づき、中学生向けの本の選択など意見を聞くことができた。	B	改善	【評価理由】 中央図書館では前年度比1割増しの約440人が参加したものの、他図書館での参加者が伸び悩んだ。しかし、通常業務との兼ね合いでこれ以上の受け入れは難しいため、B評価とした。 【今後の方向性（改善策）等】 今後は、中央館以外の図書館における受入体制の検討を進めるとともに、学校との調整を強化し、希望者の分散や受入機会の均等化を図る。また、令和8年10月に桑都の杜がオープンするので小学生等を対象とした施設見学も行う。	参加者数1,500人	憩いライブラリの開設に向け、業務が増加することから参加者数を今年度程度とした。	図書館課

各事業評価シート

【基本施策2 社会を創る学びの推進
施策の展開⑤ 地域活動に参加する人材の育成】

生涯学習プラン				未来デザイン2040		基本情報			量的成果			質的成果		自己評価			次年度の目標		担当課
番号	施策の展開	具体的な施策	施策名	施策番号	施策名	事業名	対象者	事業目的・R7の実施状況	評価指標	R7目標値	R7目標値の理由・根拠	R7実績値	参加者の声・学びの様子（120字程度）	評価	事業の方向性	評価の理由・今後の方向性（改善策）等	R8目標値	R8目標値の理由・根拠	
65	05	19	地域の課題の発見・解決を支える学びの創出	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	はちおうじ出前講座	どなたでも	【事業目的】官公署など、様々な主体と連携して出前講座を実施し、市民の生涯学習に対する支援と意識の向上をはかる。 【R7の実施状況】市役所及び官公署・企業の専門知識を活かした出前講座を1,515回実施し、延べ119,785人が参加した。	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	利用者数150,000人以上	昨年度の利用者数と講座提供数を勘案し、同水準を目標値に設定した。（昨年度：132,609人）	119,785人	講師派遣した部署から提出のあった実績報告書によると、受講者アンケートには「大変参考になることが多く、勉強になった。知っているようで知らないことが多かった。」といった意見があった。また、「講師の話をうなづきながら皆さんとても熱心に聞いていた。」という参加者の様子が記載されているものもあった。	A	継続	【評価理由】多くの市民に生涯学習の機会の提供でき、実績報告書から、講座内容についても一定の評価を得られたと確認できたため。 【今後の方向性（改善策）等】市民の多様な学習ニーズに応えられるよう、講座提供先の開拓に努める。	利用者数150,000人以上	過去2年間の利用者数が安定しており、講座提供数を勘案すると現行も目標水準の維持が妥当と判断したため。	学習支援課
66	05	20	地域で活躍するボランティアの養成・支援	2-2	誰もが生きがいを持ち安心できる地域づくり	シニア元気塾 ボランティア入門講座	シニア	【事業目的】知識、経験、特技を持つ高齢者の新たな人材発掘や、ボランティア活動のきっかけをつくり、高齢者の社会参加促進を図る。 【R7の実施状況】現場実習を含む、ボランティア活動のきっかけづくりとなる講座を、全7回実施した。	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	修了者数30人	講座終了後のボランティア活動に活かしてもらうことを理想とし、講座の定員数30名で全員が全ての講座日程を修了することを目標とする。	修了者数26名	「この講座に参加できて良かった。地域の方と接触できたのは私にとってプラスでした。」 「ボランティアに興味があり、第一歩を踏み出してみようと思いました。」 「高齢者への知識が足りないことに気がつきました。」 等の、講座に満足する参加者からの声が多くあった。	A	継続	【評価理由】講座受講者全員が修了することはできなかったが、約9割の受講者が講座を修了することができた。また、参加者から多くの満足する意見等をいただいた。 【今後の方向性（改善策）等】今後も多くの方にボランティア活動のきっかけづくりの機会を提供できるよう、広く周知を図る。講座の実施内容についても、より良いものにするよう、改善を検討していく。	修了者数30人	講座の定員数30名、全員が全ての講座日程を修了し、講座終了後のボランティア活動に活かしてもらう。	高齢者いきいき課
67	05	20	地域で活躍するボランティアの養成・支援	2-2	誰もが生きがいを持ち安心できる地域づくり	日本語ボランティア養成講座	外国人	【事業目的】外国人市民の日本語学習支援の拡充 外国人市民の日本語学習支援のための支援者を養成する講座を実施する。 【R7の実施状況】基礎講座3日×2コース＝延べ98人日 ブラッシュアップ3日×1コース＝延べ42人日 合計：延べ140人日	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	55人	20人×3コース＝60人が目標の上限であり、55人を目標ラインとする。	55人	・あつという間の2時間でした。外国人の人から見た日本語（学習）の難しさや、面白さについて発見や気付きがありました。人間どうしのコミュニケーションは国内外を問わず、誠意を持つ事が大切だと感じました。 ・直接外国人とコミュニケーションがとれたことがとても良かった。 ・受講生はリピーターの方が多いため、同じ講師に同じ内容をお願いする訳には行かない。講師の選任と講座内容に工夫をしている。ご満足いただいていると思います。	A	継続	【評価理由】日本語学習支援に関する研修やボランティア団体の活動紹介ができ、今後の活動に大きく役立つものである。 【今後の方向性（改善策）等】予算や日程が限られている中で、良い講師を招き、ボランティア団体と協力して行っていく。	55人	予算や委託先の人員体制などを踏まえると、現状の維持がギリギリの目標といえる。	学園都市文化課（多文化共生担当）
68	05	20	地域で活躍するボランティアの養成・支援	2-2	誰もが生きがいを持ち安心できる地域づくり	手話講習会	若者 成年 シニア	【事業目的】手話通訳ボランティア・手話通訳者の養成及び障害のある人に対する理解の促進を図る。中級手話講習会や手話通訳者養成入門講座等を開催し、手話通訳ボランティアの養成及び障害のある人に対する理解の促進を図る。 【R7の実施状況】各クラス全34回開催。 ・中級クラス 受講生：31人 ・養成入門昼クラス 受講生：18人 ・養成入門夜クラス 受講生：25人 ・養成クラス（1クラス） 受講生：6人 手話通訳者全国統一試験 受験者：9人 合格者：5人	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	参加延べ人数2,000人	講習会の実施状況を示す指標として参加人数を用い、実績を踏まえ、2000人を目標値とした。	参加延べ人数2,614人	地域の手話ボランティアから、手話通訳者まで養成をおこなった。クラスが上がるに連れ聴覚障害者の皆様の現状、手話表現の難しさを知る機会が増え、今後の活動の方向性について悩まれる受講生が見受けられた。職場や家庭とは異なる緊張感や困難な場面に遭遇されることも多かったと推測するが、講習会に参加した多くの方たちがそれらを乗り越え、講座修了された姿には感動を憶えた。	A	継続	【評価理由】目標値を達成し、市民の関心が高い講座であることが確認できる。加えて、合格率8.31%の難関試験である手話通訳者全国統一試験において、5名の合格者を輩出するなど、専門性の高い成果を上げている。 【今後の方向性（改善策）等】聴覚障害への理解促進および手話言語の普及に引き続き努めるとともに、聴覚障害者支援において重要な役割を担う手話通訳者や支援者の養成を行う。また、手話通訳者全国統一試験合格者の輩出を目指し、講座内容の充実を図り、計画的に事業を展開していく。	参加延べ人数2,600人	令和7年度の受講者実績とほぼ同等に設定した。	障害者福祉課
69	05	20	地域で活躍するボランティアの養成・支援	2-2	誰もが生きがいを持ち安心できる地域づくり	要約筆記者養成講習会	若者 成年 シニア 通訳業務が可能な障害者の方	【事業目的】要約筆記者の養成及び障害のある人に対する理解の促進を図る。中途失聴難聴者等に対する通訳手段である要約筆記技術の習得、要約筆記者の養成の場として、2か年にわたって実施する。 【R7の実施状況】全国統一要約筆記者認定試験 受験者：8人 合格者：2人（手書き1・PC1）	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	受講者数10人	講習会の実施状況を示す指標として受講者数を用い、受講定員を踏まえつつ前年度の実績を考慮し、10人を目標値とした。	受講者数9人	聞こえた内容を文字にして聴覚に障害のある方に情報を伝える（通訳）技術を習得するための講座である。令和7年度は左利きの受講生がいらっしゃり（右き利きであることを前提にチームが組まれる（4人1組み））、実習の際に特別な対応が必要となった。左利きであることで、通常の実習が出来ない場面もあったが、当事者の方は理解を示して下さり、無事に講習を終えることができた。	A	継続	【評価理由】目標値より1人少なかったが、ほぼ計画どおり事業を実施した。主に中途失聴者・難聴者の通訳手段である要約筆記技術の習得が進み、全国統一要約筆記者認定試験では2名の合格者を輩出するなど、一定の成果が得られた。 【今後の方向性（改善策）等】今後も、聴覚障害者支援の基盤となる要約筆記者の養成に取り組むとともに、全国統一要約筆記者認定試験合格者の輩出を目指し、講座を継続的に実施していく。	受講者数10人	令和7年度の受講者実績とほぼ同等に設定した。	障害者福祉課

各事業評価シート

【基本施策2 社会を創る学びの推進
施策の展開⑤ 地域活動に参加する人材の育成】

番号			生涯学習プラン		未来デザイン2040		基本情報				量的成果				質的成果		自己評価			次年度の目標		担当課
	施策の展開	具体的な施策	施策名	施策番号	施策名	事業名	対象者	事業目的・R7の実施状況	評価指標	R7目標値	R7目標値の理由・根拠	R7実績値	参加者の声・学びの様子（120字程度）	評価	事業の方向性	評価の理由・今後の方向性（改善策）等	R8目標値	R8目標値の理由・根拠				
70		05	20		3-3	地域で活躍するボランティアの養成・支援	学びを活かせる生涯学習の推進	生涯学習コーディネーター養成講座	どなたでも	【事業目的】 市民の学習活動を支援する「生涯学習コーディネーター」を養成し、生涯学習推進事業の中核を担う人材の育成を目指す。	【R7の実施状況】 座学とワークショップを取り入れた全3日の講座を実施した。	参加者等の満足度	アンケートで「満足」「やや満足」と答えた割合80%以上	77%	修了課題の内容を工夫し、受講生が今後の行動を具体的にイメージできる設問に改めた。その結果、生涯学習と身近な地域課題を結びつけて自ら考える機会となり、今後の実践を促すことができた。	B	改善	【評価理由】 受講者募集の際に、新たに市広報LINEによる情報発信を行う等した結果、応募者数が大幅増となった（R6年度12人→R7年度31人）。一方で本講座が基礎的内容である旨の周知不足により、発展的な内容を求める受講者との間でミスマッチが生じ、満足度が低下した。	アンケートで「満足」「やや満足」と答えた割合80%以上	受講者数は前年を上回ったが、満足度が目標に到達しなかったため、内容の充実を図り、満足度の向上に努める。	学習支援課	
71		05	20		2-2	地域で活躍するボランティアの養成・支援	誰もが生きがいを持ち安心できる地域づくり	はちまるサポーターの育成	どなたでも	【事業目的】 はちまるサポーター養成講座を通じて地域福祉の理解を深め、日常生活の中で地域課題や気になることを市の相談窓口につなぐ、「つなぎ手」を育成する。	【R7の実施状況】 R7年度登録者数 170名(R8.3月末現在)	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	80名	講座への参加状況を示す指標として参加者数を用い、前年度実績を踏まえ80名を目標値とした。	170名	講座では地域の課題について考えを深める様子が見られ、地域活動への関心の向上につながっている様子が見受けられた。	A	継続	【評価理由】 市内13箇所にあるはちまるサポートで随時養成講座を開催し、計画の目標値を上回る市民の方に参加していただくことができた。	115名	地域福祉計画に記載したR8年度目標値とする。	福祉政策課
72		05	21		1-1	地域での活動のきっかけづくり	市民自治の推進	はちおうじ志民塾	その他（八王子市内で市民活動をしたいと思っている人）	【事業目的】 これまで培ってきた自らの経験や知識を地域に根ざした主体的な活動に活かし、地域活動の担い手の中心となる人材を養成する。 50歳以上のシニア、プレシニアを主な対象に、地域で活動するきっかけとなる知識を学ぶ。	【R7の実施状況】 全16回、受講者10名	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	20名	受講者が取り組みたいテーマによりグループ化し、ワーク等を行うため、一定の人数規模となることが望ましいため。	10名	受講者の満足度は、講座全体の平均で92.0点と概ね好評であったが、市民活動をする上での実践的な内容を望むとの個別意見があった。	B	改善	【評価理由】 受講者数が定員に達しなかった原因の一つとして、効果的な周知ができていなかったことが考えられ、その点の見直しが必要と思われる。	20名	当講座はグループでのワークやディスカッションを通じて、受講者自身の活動の方向性を決定していく内容であるため、20名程度が適当な規模である。	協働推進課
73		05	21		1-1	地域での活動のきっかけづくり	市民自治の推進	市民活動入門講座（アクティブ市民塾）	どなたでも	【事業目的】 市民活動団体の活動を紹介する。市民活動に対する理解を深め、市民活動を促進する。	【R7の実施状況】 ①八王子平和・原爆資料館 ②まちの図書室・保健室おさんぽ ③思い出カフェROKUMARU	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	100名	市民活動への参加状況を把握するため参加者数を指標とし、過去の実績を踏まえ、100名を目標値とした。	65名	参加者同士が交流する様子が見られ、市民活動への関心の向上につながっている様子が見受けられた。	B	改善	【評価理由】 より多くの市民に知ってもらうことを目的としているが、周知が不足しており、参加者が限定的であった。	75名	年3回の実施を予定しており、1回あたりの定員が平均25名程度であるため。	協働推進課
74		05	21		1-1	地域での活動のきっかけづくり	市民自治の推進	はちコミねっと	どなたでも	【事業目的】 市民活動団体が自らの活動内容の周知やイベントの告知、仲間募集等の情報発信を行なう情報サイト	【R7の実施状況】 登録団体に活発な活用を促すため、情報の掲載方法等の説明会を年間を通じて実施した。	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	330団体	市民活動の周知に係る情報の充実度を示す指標として登録団体数を用い、前年度の実績を踏まえ、330団体を目標値とした。	353団体	情報の掲載方法等の説明会を年間を通じて実施することで、登録団体に活発な活用を促すことができた。	A	継続	【評価理由】 利用を促すための個別説明会等により登録団体が増加した。	360団体	継続実施とし、前年度の実績に基づいた目標設定とした。	協働推進課

各事業評価シート

【基本施策2 社会を創る学びの推進
施策の展開⑤ 地域活動に参加する人材の育成】

番号	生涯学習プラン			未来デザイン2040		基本情報			量的成果				質的成果		自己評価			次年度の目標		担当課
	施策の展開	具体的な施策	施策名	施策番号	施策名	事業名	対象者	事業目的・R7の実施状況	評価指標	R7目標値	R7目標値の理由・根拠	R7実績値	参加者の声・学びの様子（120字程度）	評価	事業の方向性	評価の理由・今後の方向性（改善策）等	R8目標値	R8目標値の理由・根拠		
75	05	21	地域での活動のきっかけづくり	2-2	誰もが生きがいを持ち安心できる地域づくり	ボランティアセンター（災害ボランティアリーダー養成講座）	どなたでも	【事業目的】 災害ボランティアセンターの運営において、身近な協力者を増やすことが重要となっている。講座を実施し災害ボランティアリーダー養成を行う。またフォローアップを充実させ、実働できるボランティアリーダーを養成していく。 【R7の実施状況】 災害ボランティアリーダー養成講座 2回 フォローアップ講座 2回 運営訓練 2回	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	養成講座：20人 フォローアップ講座：40人 運営訓練：160人	ボランティアリーダーの養成状況を示す指標として養成講座等の参加者数を用い、前年度の実績を踏まえた目標値とした。	養成講座：17人 フォローアップ講座：58人 運営訓練：95人	訓練当日が雨天ということもあり、短縮での実施となった。そのため例年より参加者が減少しているが、雨天時にもできるプログラムを用意することを今後検討する。フォローアップ講座では、災害支援NPO等を講師として招き、登録ボランティアの知識の向上を図っている。質疑応答も活発であり、関心の高いテーマを取り扱う事ができたと認識している。	B	改善	【評価理由】 フォローアップ講座では、実際の災害対応事例を踏まえた内容を取り入れることで、登録ボランティアの知識向上につながる成果が見られた。 一方で、養成講座および運営訓練については、当日の天候不良により訓練時間の短縮をしたことや、天候に左右されない実施方法が十分に確立されていなかったことから、前年度と比較して参加者数が減少した。 【今後の方向性（改善策）等】 雨天時の代替プログラムなど、柔軟な実施方法を検討することで、安定した事業運営を図る。 また、災害ボランティアへの関心を高めるため、講座内容の周知方法の工夫や、参加しやすい開催日時の設定などにより参加者の裾野を広げる。 養成から実践までつながるフォロー体制の充実を図り、実働可能なリーダーの育成につなげる。	養成講座：20人 フォローアップ講座：60人 運営訓練：160人	昨年同等の目標値とするが、よりフォローアップに注力し、実働できるボランティア養成を実践していく。	社会福祉協議会ボランティアセンター（福祉政策課）	
76	05	22	図書館の地域の情報拠点としての機能の充実	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	図書館ボランティアの育成・支援	成年	【事業目的】 図書館で活動する様々なボランティア団体へ必要に応じて研修等を行うなど支援を行い、図書館事業の更なる充実を図る。 【R7の実施状況】 ボランティア実施回数、参加者数690回1,070人	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	実施回数680回 参加者数1,010人	図書館で活動するボランティア団体に対し研修等による育成・支援を行っており、その成果を研修等への参加者数により測る指標としている。 令和6年度の実績（実施回数680回、参加者数1,010人）を踏まえ、ボランティア活動の安定的な継続を図る観点から、同水準を目安として目標値を設定した。	実施回数690回 参加者数1,070人	図書館事業を支えるボランティアに活動内容に見合った育成や研修、日常的な指導等を行うことで、新しいボランティアの育成、技術の向上等が見られている。	A	継続	【評価理由】 コロナ禍のため活動を休止していたブックスタートボランティアに改めて読み聞かせの研修を実施することができた。 【今後の方向性（改善策）等】 昨年度開催した初級音訳講習会の参加者の更なるスキルアップのため、関係ボランティアグループと連携し、録音技術などを身に付けていただき、音訳ボランティアの育成を図るため引き続き育成を実施する。	実施回数695回 1,100人	ボランティアの活動内容に合わせ、研修などの支援を行い、それを指標とするため。	図書館課	
77	05	22	図書館の地域の情報拠点としての機能の充実	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	行政連携展示	どなたでも	【事業目的】 テーマ展示等による重要施策に係る情報発信や、図書館の会議スペースを活用した講座等の実施、他所管実施イベント等への出展により図書館情報の発信の充実を図る。 【R7の実施状況】 地域の情報拠点として行政情報等を図書館の資料を使って効果的に発信するため図書館以外の所管と連携して設定したテーマの資料を展示した。	普及・啓発（情報発信・チラシ配布等）	連携所管数20所管 実施回数40回	図書館以外の所管との連携の広がり取組状況を把握するため、令和7年度から連携所管数を実数を指標とし、実施状況を踏まえ、実現可能かつ効果的な水準として目標値を設定した。	連携所管数25所管 実施回数43回	庁内各所管との連携によりテーマ展示を実施することによってより図書館の情報提供の深みが増し、普段は気づかない本に興味を持ち貸出しにつながるように見受けられた。	A	改善	【評価理由】 テーマごとに関連性のある書籍を選定し、分かりやすく展示することができた。 【今後の方向性（改善策）等】 利用者のニーズを鑑みながら、時代に即したテーマ展示を実施する。	連携所管数25所管 実施回数43回	庁内各所管との連携によりテーマ展示を実施することによってより図書館の情報提供の深みが増すため、その所管数・実施回数を指標とする。	図書館課	
78	05	22	図書館の地域の情報拠点としての機能の充実	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	パークライブラリー	どなたでも	【事業目的】 ポストコロナにおける身近な読書環境を整備するとともに、読書の普及啓発や図書館情報の効果的な発信を行い、地域の情報拠点として地域コミュニティの活性化に寄与する。公園を活用した新たな読書空間を演出することにより新たな利用者層を開拓する。 【R7の実施状況】 移動図書館を持ち込み、新図書館のPRを行う等して実施した。	事業の再構築・充実・拡大等	中央年1回 南大沢年2回	令和6年度において実施した内容・規模で一定の効果が確認され、実施体制を踏まえ、安定的な事業継続を図る観点から、前年度と同水準として中央年1回、南大沢年2回を目標値として設定した（川口は工事休館のため令和6年度は未実施）。	中央年1回 南大沢年2回 川口年1回	本事業は令和2年に南大沢館が実施したことを皮切りに、中央館及び川口館でも実施をしている。会場である公園側（陵南公園、小山内裏公園、長池公園）や他所管との連携も進み、地域連携事業として充実してきている。 また、例年、青空の下で子どもに本を読み聞かせている親子や、自ら本を手にとって楽しむ市民の様子が見受けられている。	A	継続	【評価理由】 長池公園での秋の開催は雨天のため午後から中止となったが、年度当初の予定通り実施できたため。 【今後の方向性（改善策）等】 今後は事業のスリム化を図り、隣接している公園での実施など機動力のある事業形態を検討していく。	中央年1回 南大沢年2回 川口年1回	実施回数の目標値は前年度と同様とした。	図書館課	

各事業評価シート

【基本施策2 社会を創る学びの推進
施策の展開⑥ 学びを活かし、つながり、広がる環境の充実】

番号			生涯学習プラン		未来デザイン2040		基本情報				量的成果				質的成果		自己評価			次年度の目標		担当課
	施策の展開		具体的な施策	施策名	施策番号	施策名	事業名	対象者	事業目的・R7の実施状況	評価指標	R7目標値	R7目標値の理由・根拠	R7実績値	参加者の声・学びの様子（120字程度）	評価	事業の方向性	評価の理由・今後の方向性（改善策）等	R8目標値	R8目標値の理由・根拠			
79	0	6	2	3	日頃の成果の発揮と学びの広がり	1-1	市民自治の推進	市民センターまつり	どなたでも	【事業目的】 地域コミュニティの拠点である市民センターで、住民協議会による市民センターまつりを開催することにより、コミュニティ活動の育成・活性化を目指す。	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	75,300人	R6センターまつり来場者数以上を目標とした。	70,156人	作品展示や舞台発表の場をはじめ、幼児から高齢者まで幅広い年齢層の方々が来場していた。 子どもたちを見守る活動からイベント発表の場を通し交流へ発展していった地域、高齢者同士のサークル活動等の交流を中心とした地域等、特性を生かした活動が見られた。	A	継続	【評価理由】 センターまつり参加者数（70,156名）は、前年とほぼ同数。そのほかの地域行事の参加者(8,094名)と合わせると、市民センターを拠点に78,000名超の市民が地域交流に参加出来Aとした。	71,000人	各住民協議会が中心となり、地域の特色や繋がりを 見据えた活動を行っている。地区ごとの特性を見据えた開催を行っているため、目標値は昨年度同程度とした。	協働推進課	
80	0	6	2	3	日頃の成果の発揮と学びの広がり	3-2	未来をひらく子どもを育てる教育	八王子市立小・中・義務教育学校合同作品展「おおるり展」	どなたでも	【事業目的】 児童・生徒の作品の発表を通して、豊かな心情を培い、創造的な能力の向上を図る。	参加者数等の満足度	来場者の満足度を99%以上とする。 （アンケート結果でも良かった・よかったと回答した割合）	多くの児童・生徒の作品を展示すること、多くの保護者等に来場していただくことを目標に計画し実施している。前年度と比較して出品作品数、参加者数ともに大きな変動はなく、開催することができたため。	99.6%	アンケートの結果では、感動した、素晴らしい等々の意見が多く、作品が展示された児童・生徒からは「来年も選ばれるように頑張る」など意見が多数あり、学習意欲の向上を図ることができた。開催期間の延長や開催場所の変更など意見もあるが、実績値のとおり来場者の満足度は高い。	A	継続	【評価理由】 事業の目的である児童・生徒の発表の場を作ることができたこと、出品作品数や来場者についても継続して一定数維持できた点によりA評価とした。	来場者の満足度を99%以上とする。 （アンケート結果でも良かった・よかったと回答した割合）	引き続き多くの児童・生徒の作品を展示すること、多くの保護者等に来場していただく参加者の満足度が高い事業を目標に計画し開催していく。	学務課	
81	0	6	2	3	日頃の成果の発揮と学びの広がり	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	南大沢総合センターまつり・川口やまゆり館まつり	どなたでも	【事業目的】 学習意欲の増進、市民（利用者）同士の交流による地域活性化 生涯学習センターを利用している団体と協働して日頃の学習の成果を発表する機会を設け、市民の交流の場を提供するとともに、地域の活性化につなげる。	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	35～45団体の参加	前回実施時の参加団体数を基準とし、参加拡大を図る観点から、現実的な成長率として3%以上の増加を見込み、目標値を35～45団体の参加として設定した。 南大沢総合センターまつり 前回（R6） 参加団体15団体 来場者数1,400人 川口やまゆり館まつり 前回（R5）※R6は不参加 参加団体19団体 来場者数1,369人	32団体の参加	南大沢総合センターまつりにおいて、メカイ作りの実演及び販売を実施し、販売用に用意したメカイは好評のうちに完売した。川口やまゆり館まつりでは、参加団体によるステンドグラスの体験教室を実施し、子どもたちが真剣に制作に取り組む様子が見られた。	A	継続	【評価理由】 川口やまゆり館の大規模改修工事に伴い、川口分館学習室の利用可能室数が減少したことに加え、利用団体の高齢化による活動休止が相次ぎ、利用件数及び利用団体数の減少が見られた。一方で、販売用に用意したメカイが完売し、子どもたちが真剣に取り組む様子が見られる等の成果があったためA評価とする。	30～40団体の参加	川口分館の利用団体が減少している状況を踏まえ、現実的な数値を設定	学習支援課	
82	0	6	2	3	日頃の成果の発揮と学びの広がり	1-1	市民自治の推進	八王子まつり	どなたでも	【事業目的】 地域文化の創造と継承、市民相互の連帯と融和、観光都市八王子のイメージの高揚を図る。	参加者数等の満足度	80%以上	会場沿道町会や各行事団体、警察等公的団体の協力を得て開催するまつりであるので、観客や参加者の満足度だけでなく、行事参加団体からも高い評価を得られるよう、設定した。	70%	・「関東屈指の山車まつり」と言われる名のおとおり、精巧な彫刻が施され昼夜で様々な姿を見せる山車巡行や、多くの担ぎ手で賑わう神輿渡御は、見るだけで楽しむことができる。また、山車曳き体験や子ども神輿担ぎ等も実施しており、老若男女問わず伝統文化を感じることができたと思われる。 ・『衣装展示』を八王子オクトーレ11階で実施したことで、熱中症対策として涼しい環境に居ながら八王子まつりを感じることができきる機会を提供できたと思われる。 ・スマホを使って簡単に参加できる『デジタル會所めぐり』を実施し、町会が人員を割かず以前のような『會所めぐり』を実施でき、当選者からは「手拭いが貰えて嬉しい。」との声が多くあった。一方で、抽選応募へのハードルの高さからか、応募者数は想定より下回る結果となった。 ・「金曜日の夜店出店がないことを残念に思う。」との声が多くあった。	A	継続	【評価理由】 金曜日の夜店出店がないかたちでの実施となったが、新たな試みとして実施した『お祭り広場』・『衣装展示』・『デジタル會所めぐり』や、『下地区山車年番送り』の復活等、様々な行事を通して、多くの来場者・参加者に楽しんでもいただけるよう、努めた。また、熱中症対策に注力したことで、安全安心なまつりを実施できた。	80%	R7に引き続き、会場沿道町会や各行事団体、警察等公的団体の協力を得て開催するまつりであるので、観客や参加者の満足度だけでなく、行事参加団体からも高い評価を得られるよう、設定した。	協働推進課（学園都市文化ふれあい財団・八王子まつり実行委員会）	
83	0	6	2	3	日頃の成果の発揮と学びの広がり	1-1	市民自治の推進	八王子いちょう祭り	どなたでも	【事業目的】 「祝昭和100年記念」をテーマとし、昭和から令和へと時代を繋いだ歴史や文化を発信した。また、「祝昭和100年記念祝賀パレード」を実施するほか、クラシックカーR実行委員会が設立され、甲州街道(追分から御陵参道)をパレードした。	参加者数等の満足度	80%	各イベントと記念事業について、地元町会や各団体と協働し、観客や参加者の安全を確保しつつ開催することを目指した。	90%	両日とも天気に恵まれ、435,000人の来場者数を記録し、楽しんでいる様子が伺えた。	A	継続	【評価理由】 各イベントと記念事業について、観客や参加者の安全を確保しつつ、地元町会や各団体と協働できた。 また、救急対応があった際にも、来場者にもご協力いただきながら、スタッフが冷静に連携して対応できた。	80%	「祝甲州街道いちょう並木100年記念」をテーマとし、相武国道事務所と協力して植樹100年の節目を祝うイベント開催する。	協働推進課（八王子いちょう祭り祭典委員会）	

各事業評価シート

【基本施策2 社会を創る学びの推進
施策の展開⑥ 学びを活かし、つながり、広がる環境の充実】

番号			生涯学習プラン		未来デザイン2040		基本情報			量的成果				質的成果		自己評価			次年度の目標		担当課
	施策 の 展開	具体的 な施策	施策名	施策 番号	施策名	事業名	対象者	事業目的・R7の実施状況	評価指 標	R7目標値	R7目標値の理由・根拠	R7実績値	参加者の声・学びの様子（120字程度）	評価	事業 の方向性	評価の理由・今後の方向性（改善策）等	R8目標値	R8目標値の理由・根拠			
84	0	6	2	3	日頃の成果の 発揮と学びの 広がり	3-3	学びを活 かせる生 涯学習の 推進	生涯学習フェスティバル	どなた でも	【事業目的】 学習意欲の増進、市民（利用者）同士の 交流による地域活性化を図る。 生涯学習センターを利用している団体と 協働して日頃の学習の成果を発表する機 会を設け、市民の交流の場を提供すると ともに、地域の活性化につなげる。 【R7の実施状況】 参加　：ステージ24組・展示9組 来場者：3,222人	参加者 数・利 用者 数・利 用件数 等 ※ 数量的 なもの	延べ来 場者数 2,500 人以上	会場規模や運営体制を総合 的に勘案し、安全かつ円滑 な運営が可能な範囲内での 来場者数として、昨年度の 同水準を目標として設定し た。（昨年度2,726人）	3,222人	参加者の多様化を目的として、R7年度より クリエイティブステージと事業を統合 して生涯学習フェスティバルを開催した。 応募要件の見直しにより、子どものバレエ 団体や中学校の吹奏楽部など、これまで参 加の少なかった若年層の団体の参画が実現 し、多世代かつ多様なジャンルによる発表 の機会を提供することができた。ステージ 参加者のアンケートからは「いろんな人に 観てもらえて良かった。」「拍手してもら えてうれしかった。」「仲間の絆を強める ことができた。」という感想がみられた。	A	継続	【評価理由】 応募者の多様性が広がったことや、参加者 が目標を大幅に超えるとともに、昨年度を 上回る来場者があったため。 【今後の方向性（改善策）等】 多様な参加団体によるステージ発表、展 示、体験等の内容の充実をはかるととも に、市民に広く周知し、当日の来場を促進 する。	延べ来 場者数 3,000 人以上	参加者の増加がみられたR8 の来場者数と同水準に目標 値を引き上げて設定する。	学習支援課
85	0	6	2	3	日頃の成果の 発揮と学びの 広がり	2-1	誰もが心 豊かに暮 らせる市 民生活の 推進	消費生活フェスティバル	どなた でも	【事業目的】 食・環境・暮らし・安全安心・消費者被害 対策などの消費生活に関する啓発 【R7の実施状況】 「みつげよう！今わたしたちにできるこ と」をテーマとした消費生活フェス ティバルを令和8年2月7日に開催した。	参加者 数・利 用者 数・利 用件数 等 ※ 数量的 なもの	認知度 75%以 上	イベント実績や広報・HP・ SNS等の情報発信にも工夫 を凝らし一定の周知効果が あったと判断できる水準と して、消費生活フェスティ バルにおけるアンケート回 答者のうち消費生活セン ターの認知度が75%以上と なることを目標値とした。	73%	参加者からは「具体的な事例を通して理解 が深まった」「自分の業務や生活にすぐ活 かせる内容だった」との声が多く、主体的 に意見交換を行う姿が見られた。学びを今 後の行動につなげようとする意欲が確認で きた。	B	改善	【評価理由】 来場回数別にみた消費生活センターの認知 度は、目標値として設定した75%にはわず かに到達しなかったが、参加者からは学び を今後の行動につなげる意欲等が確認でき たため、B評価とする。 【今後の方向性（改善策）等】 アンケート結果を踏まえ、情報発信を継続 するほか、令和8年度からは「広報はちおう じ」の「生活あんしん通信」を活用し、認 知度の向上を図る。	認知度 75%	イベントのアンケート結果 を活用できるように質問内 容を検討する。 効果的な情報発信を行い段 階的な認知度の向上を目指 し、目標値は継続とする。	消費生活セ ンター
86	0	6	2	4	図書館を起点 としたつな がりの創出	3-3	学びを活 かせる生 涯学習の 推進	八王子千人塾	シニア	【事業目的】 高齢者が図書館を使った調査法などを学 ぶ講座で、交流を図りながら興味を持ち 続けることで、生きがいづくりを創出す る。 【R7の実施状況】 60歳以上の市民を対象とした生涯学習支 援事業として実施した。	参加者 数・利 用者 数・利 用件数 等	講座修 了者 10人	講座の内容や運営体制、定 員を考慮し、適切な受講環 境を確保する観点から、令 和6年度と同数である講座 修了者10人を目標値として 設定した。	講座修 了者 16人	初めて参加した方の声として、他の塾生 の方が熱心に調べ学習に取り組み、専門性 の高い取りまとめをするなど、質の高い活 動を続けていることを挙げており、参加し たことへの意義や満足感が見られた。	A	継続	【評価理由】 図書館が高齢者に向けて実施している調べ 学習の事例は、他地域を含め類を見ない取 組であることから、大学等教育機関からの 視察等が多数寄せられており、参加者の取 組に対する満足度や意欲の高さがみられる ことから、A評価とした。 【今後の方向性（改善策）等】 引き続き事業を継続し、当事業の質と量の 充実を図りたい。	講座修 了者 20人	定員が20名であることによ る。	図書館課
87	0	6	2	4	図書館を起点 としたつな がりの創出	2-2	誰もが生 きがい を持ち安 心できる 地域づく り	幸齢者カフェ	シニア	【事業目的】 介護や認知症などについて、気軽に話し 合える場づくりを図書館で開催すること で、当事者や家族等が地域コミュニティ とつながる機会を提供する。 【R7の実施状況】 計3回（9月、12月、3月）実施。	参加者 数・利 用者 数・利 用件数 等 ※ 数量的 なもの	参加者 数：延 べ70人	催しの内容や定員、運営体 制を考慮し、参加者同士が 安心して交流できる規模を 確保する観点から、令和6 年度と同水準とし、延べ参 加者数70人を目標値として 設定した。	参加者 数：延 べ80人	来場者からは、図書館で本を見ながら参加 でき楽しかったという声や、認知症当事者 の方の生の声を聴く機会ができて参考に なったとの声があった。	A	継続	【評価理由】 年度当初に見込んでいた同程度の参加人数 となり、事業の目的に見合ったニーズが確 保できたと思われる。 【今後の方向性（改善策）等】 引き続き事業を継続するとともに、図書館 が会場であることを最大限に活かした取組 となるよう、内容のさらなる充実を図りたい。 。	参加人 数：延 べ80名	令和7年度同等のニーズが あると見込まれることによ る。	図書館課

各事業評価シート

【基本施策2 社会を創る学びの推進
施策の展開⑦ 学園都市の強みを活かした学びの拡充】

番号		生涯学習プラン		未来デザイン2040		基本情報			量的成果			質的成果		自己評価			次年度の目標		担当課
	施策の展開	具体的な施策	施策名	施策番号	施策名	事業名	対象者	事業目的・R7の実施状況	評価指標	R7目標値	R7目標値の理由・根拠	R7実績値	参加者の声・学びの様子（120字程度）	評価	事業の方向性	評価の理由・今後の方向性（改善策）等	R8目標値	R8目標値の理由・根拠	
88	0	7	2	5	高校生・大学生・若者を主体とした地域連携・地域活動の推進	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	★学生天国★ 【事業目的】 学生同士及び日頃学生と関りが少ない市民の方々との交流を図る。 大学コンソーシアム八王子加盟25大学等の学生で構成する学生委員会により開催し、学生同士や市民の人たちとの交流を図る。 【R7の実施状況】 令和7年5月11日に開催 16校46団体参加	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	来場者18000人以上	交流機会の充実を図る事業であることから来場者数を指標とし、コロナ禍収束後の増加傾向を踏まえ、18,000人を目標値とした。	18000人	アンケートは限定的な実施にとどまったが、学生出展者や来場者からは「学生主体の企画が面白い」「市民と直接交流できて良かった」といった声が聞かれた。学生同士の交流だけでなく、地域とのつながりを感じられる場として好意的に受け止められている。	A	継続	【評価理由】 学生同士および市民との交流機会が豊富に提供され、参加者数が目標を達成または上回った。 コロナ禍以降も来場者が増加傾向にあり、地域と学生のつながりが着実に強化されている。 【今後の方向性（改善策）等】 来場者満足度向上のため企画内容の多様化・運営体制の強化を検討する。	19000人	来場者増加傾向を踏まえ、次年度も目標設定	学園都市文化課
89	0	7	2	5	高校生・大学生・若者を主体とした地域連携・地域活動の推進	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	学生発表会 【事業目的】 大学コンソーシアム八王子加盟大学等の学生が、日頃の研究成果や学修の成果を市民・企業・市政に向けて発表する機会を設けることで、学びを社会に発信する力を育むとともに、学生と地域との交流を促進し、八王子地域への理解や関心を高めることを目的とする。 【R7の実施状況】 令和7年12月6、7日に開催 276件の発表（16大学等）	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	発表件数300件	学生の成果発表の機会を提供する事業であることから、発表件数を指標とし、例年の実績を踏まえて、300件以上を目標値とした。	276件	学生が八王子の大学に所属しているという帰属意識を高める機会となった。また、学外で発表する経験を積むことで、研究内容を分かりやすく伝える力の向上につながり、学生にとって有意義な学習の場となった。	A	継続	【評価理由】 令和7年度は276件の発表があり、16大学等の学生が参加。令和6年度より数字としては減少したが、目標の300件に迫る成果を挙げ、学生の研究成果発表の機会が十分に確保された。 学生と市民・企業・市政の交流の場として機能し、事業目的が概ね達成された。 【今後の方向性（改善策）等】 発表後のフィードバックや質疑応答の時間を充実させ、学生が発表内容をさらに深められるようにする。	発表件数300件	令和7年度は276件の発表を実施し、目標の300件に届かなかった。これまでの参加大学・学生数の傾向や、発表件数増加の余地を踏まえ、次年度は300件を目標とすることで、学生の発表機会拡大と市民・企業との交流の充実を目指す。	学園都市文化課
90	0	7	2	5	高校生・大学生・若者を主体とした地域連携・地域活動の推進	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	若者による社会参加・社会貢献活動の促進 ①「大学生等が参画する生涯学習センター講座の実施」 【事業目的】 大学生等の知識や大学等の有する設備を活用した講座を地域の大学等と協働で実施し、市民の学習機会の一層の充実を図る。 【R7の実施状況】 東京工科大学の協力により「夏休みプログラミング体験講座」を2回開催し、25名が参加した。学生が助手となり、子どもたちにプログラミングを体験する機会を提供した。	参加者等の満足度	満足度85%以上	成果を講座参加者の実感から把握するため、講座の参加者アンケート集計の「大変満足」「満足」の割合（満足度）を多数が高評価であったと判断できる85%以上を目標としている。	満足度95.5%	アンケート結果では「大変満足」「満足」という肯定的な回答が95.5%だった。参加した子どもからは「教えてくれるお姉さんがやさしく声をかけてくれたり、助けてくれたよかった」「説明がわかりやすくて次の講座にも行きたい」などの声があり、子どもたちのデジタル体験の機会とともに、年代の近い大学生が教える効果も得られた。	A	継続	【評価理由】 大学との連携により若者が参加する機会を創出でき、参加者アンケート結果からも高い満足度を得ることができた。 【今後の方向性（改善策）等】 継続して大学生等の若者が参画する講座を実施し、学びを活かすとともに市民の学習機会の一層の充実を図る。	満足度85%以上	大学生等の若者が参画する講座の指標を受講者の実感から把握するため、参加者アンケート集計の「大変満足」「満足」の割合（満足度）を多数が高評価であったと判断できる85%以上としている。	学習支援課
91	0	7	2	5	高校生・大学生・若者を主体とした地域連携・地域活動の推進	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	若者による社会参加・社会貢献活動の促進 ②「学生企画事業への支援」 ③「学生企画事業補助金」 【事業目的】 大学コンソーシアム八王子加盟大学等の学生が、八王子地域を舞台に企画・運営・実施するイベントや調査・研究活動について、選考を行ったうえで費用の一部を補助することにより、学生の主体的な社会参加を促進するとともに、若者と地域との連携・交流の活性化を図ることを目的とする。 【R7の実施状況】 7校10団体が補助の対象団体として採択された。	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	採択団体数15団体	例年の採択件数を踏まえて設定	10団体	採択された学生団体は、自ら地域課題を捉え企画から運営まで主体的に取り組んでおり、地域との関わりを通じて実践的な学びを深めている様子が見られた。本事業が、若者の社会参加や地域への関心を高める契機となっていると考えられる。	A	継続	【評価理由】 令和7年度は7校10団体を採択し、学生が地域課題を踏まえた企画を主体的に実施した。地域との連携を通じて実践的な学びや社会参加意識の向上が見られ、事業目的は概ね達成された。 【今後の方向性（改善策）等】 成果報告会や中間相談会を通じて、事業の途中段階から助言や意見交換が行える体制を維持し、学生団体への適切なフォローを行う。 また、指定課題部門の内容や補助上限額の整理、複数年採択団体に対する取扱いの明確化などを行い、制度の分かりやすさ向上と事業内容の充実を図るとともに、周知方法の工夫により参加促進につなげていく。	15団体	例年の応募状況および採択実績を踏まえ、継続的な学生の社会参加促進と事業規模の維持を目的として、過去実績と同水準となる15団体を目標値として設定した。	学園都市文化課
92	0	7	2	5	高校生・大学生・若者を主体とした地域連携・地域活動の推進	3-1	全ての子どもが健康やかに育つ地域づくり	若者による社会参加・社会貢献活動の促進 ③「若者の活動拠点づくり」 【事業目的】 若者が地域で生き生きと活躍できる場を提供し、社会的な自立に向けた支援を行う。 【R7の実施状況】 ・若者総合相談センターの運営	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	利用件数：3500件	第2次八王子市子ども・若者育成支援計画の指標に基づく目標値	3,731件	利用者アンケートの結果 ・利用できる人には利用をおすすめしたい。 ・居心地の良い居場所である。 ・通っていて楽しむことができている。 ・スタッフさんが、いつも気にかけてくれるので安心できる。 以上のことから、若者にとって若者総合相談センターが居場所となり、社会的な自立へつながることが予見される。	A	継続	【評価理由】 量的成果の指標とした年間の利用件数3,500件を達成し、利用者アンケートからも十分な成果があると考えられるため。 【今後の方向性（改善策）等】 教育委員会が実施する不登校の保護者向け「保護者サロン」の実施場所を一部当センターで実施し、義務教育卒業後に頼れる支援機関として保護者層に効果的に周知していく予定。	利用件数：3500件	第2次八王子市子ども・若者育成支援計画の指標に基づく目標値	青少年若者課
93	0	7	2	6	大学等との連携による読書環境の充実	3-3	学びを活かせる生涯学習の推進	大学図書館利用の促進 【事業目的】 市と大学等で連携し、所有する資料等のリソースを相互に活用する。 【R7の実施状況】 大学が所有する資料について、希望する市民が閲覧できるよう協力を依頼した。	参加者数・利用者数・利用件数等 ※数量的なもの	依頼数3件	閲覧協力の依頼数の過去3年間の平均値	依頼数3件	専門書、論文、洋書など多岐にわたる分野の資料について、各大学に閲覧について協力を依頼した。市図書館やその他自治体の公共図書館には所蔵のない資料の利用につなげることができ、市民の学習の深化に寄与した。	A	継続	【評価理由】 目標値を上回る利用実績があった。 【今後の方向性（改善策）等】 必要としている利用者にサービスが届くよう、案内などを強化する。	依頼数4件	閲覧協力の依頼数の直近3年間の平均値	図書館課

各事業評価シート

【基本施策2 社会を創る学びの推進
施策の展開⑦ 学園都市の強みを活かした学びの拡充】

生涯学習プラン				未来デザイン2040		基本情報				量的成果				質的成果		自己評価				次年度の目標		担当課
番号	施策の展開	具体的な施策	施策名	施策番号	施策名	事業名	対象者	事業目的・R7の実施状況	評価指標	R7目標値	R7目標値の理由・根拠	R7実績値	参加者の声・学びの様子（120字程度）	評価	事業の方向性	評価の理由・今後の方向性（改善策）等	R8目標値	R8目標値の理由・根拠				
94	0	7	26		大学等との連携による読書環境の充実	1-1	市民自治の推進	大学等との共同研究・企画「中央大学との共同研究」	中央大学	【事業目的】 本市における図書館整備及び読書環境等に関する調査・データ分析・検証作業等を通じ、その向上を図る。 【R7の実施状況】 ポップアップライブラリをはじめ複数の共同研究を実施した。	参加者数・利用者数・利用件数等 ※ 数量的なもの	研究数4件	共同研究者としてご参加いただいている研究者4名が1件ずつ研究すると想定	研究数4件		「八王子市中央図書館10代向けフリースペースの企画と実践」「図書館閲覧量調査について」「図書館利用者満足度調査の改善について」「電子書籍サービス利用行動分析の動向と展望」について研究を行い、その成果を成果報告会で発表した。報告会の参加者からは「興味深かった」「図書館運営に活かしたい」との声があった。	A	継続	【評価理由】 各研究について充実した成果があった。また、中央大学の学生との共同研究を通して、若者の学びを支援することができた。 【今後の方向性（改善策）等】 研究成果を読書環境の向上につなげる実践的な研究へ発展させる。	研究数4件	共同研究者としてご参加いただいている研究者4名が1件ずつ研究すると想定	図書館課